

第5期磯子区地域福祉保健計画

令和8年(2026)年度～令和12(2030)年度

スイッチON磯子



令和8年～12年度 第5期磯子区地域福祉保健計画 スイッチON磯子



第5期 スイッチON磯子

発行

横浜市磯子区役所 福祉保健課

〒235-0016 横浜市磯子区磯子3-5-1 TEL:045-750-2442 FAX:045-750-2547
E-mail: is-fukuho@city.yokohama.lg.jp

社会福祉法人 横浜市磯子区社会福祉協議会

〒235-0016 横浜市磯子区磯子3-1-41 TEL:045-751-0739 FAX:045-751-8608
E-mail: info@isoshakyo.com



この冊子は赤い羽根共同募金を財源の一部として活用しています。

赤い羽根共同募金

令和8年3月発行

磯子区内地域ケアプラザ(根岸、滝頭、磯子、屏風ヶ浦、新杉田、洋光台、上笹下)

横浜市磯子区役所 横浜市磯子区社会福祉協議会

未来にはばたく磯子100周年ありがとう

福祉・保健は日々の暮らしに関わる、最も身近なこと

わたしたちのまち磯子は、9つの地域を中心に日々の暮らしが営まれる中で、お互いを支えあう福祉・保健のこころが育まれてきました。福祉・保健は皆さん一人ひとりにとって、特別なことをするのではなく、日々のちょっとした気づきや行動の中にあるもの、一緒に楽しみながら取り組むものです。

こどもから青少年・若年層・高齢者・障害者・外国籍の人など、磯子に住むすべての人々が、お互いを思いやり、つながっていくことが大切です。



「福祉」＝「特別なこと」ではなく、
身近な暮らしを
よりよくすることだよ！

あなたの声と一歩が、まちを変えます

磯子区地域福祉保健計画(スイッチON磯子)は、誰もが幸せに暮らせるまちをみんなでめざす計画で、第1期計画が策定された平成18年度から、20年の長きにわたり、磯子に住む人々の福祉・保健のよりどころとなってきました。これからの磯子をよりよくするために、この計画を自分事としてとらえ、自らの心と体の健康も大切にしながら、あなたの声と一歩で変えていきませんか。そうした取組を地域の皆さんと一緒にすすめることで、自分たちの暮らしやまちをよりよいものにするにつながりま。

「スイッチON磯子」の愛称は、一人ひとりができることから始めるきっかけとなることを願って、区民からの提案に基づき命名されました。

区制100周年の歩みを未来につなぐ

磯子区は、昭和2年(1927年)10月1日に、横浜市で初めて区制を敷かれた際に、誕生した5区のうちの一つで、令和9年(2027年)に100歳を迎えます。これまでの磯子のまちを築きあげてきた皆さんへの感謝を胸に、地域の力で未来にはばたく次の世代を、笑顔あふれる磯子のまちを、育んでいきましょう。



一人ひとりが自分ができることから
一歩踏み出せばいいんだよね。
それぞれがスイッチONだよ。



磯子区地域福祉保健計画(スイッチON磯子) 案内役「梅さん」

- 生年月日：平成18年4月1日(スイッチON磯子の開始日)
- 身長：30cm
- 好きな言葉：人情 ●趣味：人と集い、遊ぶこと
- 特技：みんなを笑顔で元気にすること



覚えてね！

ごあいさつ

「一歩踏み出すスイッチを 地域の皆さまとともに」

このたび、第5期磯子区地域福祉保健計画を地域の皆さまをはじめ、関係機関や各団体、行政と協調して、無事に取りまとめることができました。

地区別計画の策定にあたっては、どの地区においても、自治会町内会、地区社会福祉協議会など、多くの地域活動団体の皆さまが議論を重ね、各地区が決めたスローガンのもと、この5年間でめざす姿が具体的に示されました。より身近で親しみやすい計画になったと実感しております。

愛称「スイッチON磯子」について、より多くの方に知っていただき、地域活動への関わりや参加につなげていきたいと考えています。

今後も連合町内会として、各地区の取組を支援しながら、地域の皆さまと力を合わせ、安心して暮らせる地域づくりを進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

磯子区連合町内会長会 会長 須田 幸雄

「つながりや支えあいの中で、自分らしく暮らせるまちをめざして」

社会福祉法では、地域共生社会の実現をめざし、「地域福祉の推進は、地域住民が相互に人格と個性を尊重しあいながら、参加し、共生する地域社会の実現をめざして行われなければならない」と謳っています。

磯子区社会福祉協議会としては法の「地域住民」を福祉施設、地域住民の各種団体、企業など、また、その皆さまが連携して構成する協働体を含めたあらゆる団体・個人であると捉えさせていただいております。

区域や地域で第5期計画策定に尽力いただいた皆さまはもとより、福祉活動に携わる多くの方々が、「誰もが幸せに暮らせるまちをみんなでめざす」を基本理念としている当計画を活用し、つながりとささえあいを持ちながら、より活発に事業を推し進めていただけるように、地域福祉の土台作りをしてまいります。

磯子区社会福祉協議会 会長 小宮山 滋

「次の100年につながる地域福祉保健の推進に向けて」

第5期磯子区地域福祉保健計画「スイッチON磯子」の策定にあたり、全ての関係者の方々に御礼を申し上げます。

本計画では、「誰もが幸せに暮らせるまちをみんなでめざす」という理念のもと、地域住民の皆さま、関係団体、行政が連携し、それぞれが持てる力を発揮することとしております。策定の過程では、多くの方々から地域への想いや提案をお寄せいただきました。心より感謝申し上げます。

計画期間中の令和9年には、磯子区制100周年を迎え、同時期にGREEN×EXPO 2027が開催されます。この節目に本計画が次の100年に向けた礎になることを期待しております。

引き続き、本計画の実現に向け、磯子区で暮らし、学び、働く全ての皆様とともに歩んでいきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

磯子区長 高橋 功

CONTENTS [目次]

1章 地域福祉保健計画について

- (1) 地域福祉保健計画の概要 P6
 - 計画の必要性
 - 計画の法的位置づけ
 - 計画の構成
 - 他の行政計画との関係性
- (2) 磯子区の現状 P8
- (3) 第4期計画の振り返りと第5期計画の方向性 P13

2章 第5期スイッチON磯子について

- (1) 基本理念と基本目標 P15
- (2) 区全域計画 P16
 - 区全域計画を推進する主体
 - 基本目標I「お互いに認めあい 自分らしく暮らせるまち」
 - 一人ひとり・地域や仲間と一緒に取り組めること
 - 区役所・区社協・ケアプラザの取組
 - 基本目標II「つながりを通して 健やかに暮らせるまち」
 - 一人ひとり・地域や仲間と一緒に取り組めること
 - 区役所・区社協・ケアプラザの取組
 - 基本目標III「共に支えあう お互いさまのまち」
 - 一人ひとり・地域や仲間と一緒に取り組めること
 - 区役所・区社協・ケアプラザの取組
- (3) 地区別計画 P30
 - 根岸地区 / 滝頭地区 / 岡村地区 / 磯子地区 / 汐見台地区
 - 屏風ヶ浦地区 / 杉田地区 / 上笹下地区 / 洋光台地区

3章 スイッチON磯子の進め方

(1) 計画の推進体制	P49
区全域計画の推進体制	P49
地区別計画の推進体制	P51
(2) 計画の振返り	P53
区全域計画	P53
地区別計画	P54
全体振返り(区全域計画・地区別計画)	P55

4章 資料編

(1) 策定の経過	P56
(2) 用語解説	P59
(3) 区全域計画の取組に係る問合せ一覧・ケアプラザの紹介	P60



!! こんな取組もあります !!

●横浜子育てサポートシステム(通称「子サポ」) ～地域ぐるみでの子育て支援をめざして～	P19
●「いそごでさがそ」でお気に入りを見つけよう	P19
●生活困窮者自立支援制度 ～くらしの困った! を一人で悩まず、相談してみませんか?～	P20
●子どもたちと地域がつながるって、いいね! ～子どもたちが主役となる地域の活動をはぐくむ～	P20
●区民の口の健康を守る!	P23
●磯子の魅力発信ポータルサイト「ISOGO+」を使ってまちに出てみよう	P23
●自治会町内会のデジタル化が進んでいます!	P24
●子ども食堂の取組 ～お腹も心もいっぱい～	P24
●在宅避難のすすめ	P28
●災害時の共助 ～日頃のつながりが、災害時の助けあいに～	P28
●ゆるやかな見守りの輪を広げる ～企業と連携した地域福祉の新たなかたち「いそまる」～	P29
●フードドライブ ～「もったいない」を「ありがとう」へ～	P29

1章 地域福祉保健計画について

(1) 地域福祉保健計画の概要

横浜市の地域福祉保健計画は、住民、事業者、公的機関(区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等)が福祉保健などの地域の課題解決に協働して取り組み、身近なつながり・支えあいの仕組みづくりを進めることで、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりをめざす計画です。

●計画の必要性

地域の中でつながりを持つことは、子育て世代や様々な生活課題を抱える人が、困ったときに相談できる相手ができたり、支援が必要な人がいることに気づいたり、いざというときの支えあい・助けあいに繋がったりと、地域で暮らす人々の安心・安全の土台です。

また、普段からのつながりがあれば、地域課題をみんなで解決するために話しあったり、そのような地域活動に参加することで居場所や役割を見出したりと、人もまちも元気になります。

地域における「つながり」が徐々に希薄化している中で、乳幼児から高齢者までの幅広い世代、外国人、障害のある方等、様々な立場や背景のある人たち誰もが、安心して自分らしく健やかに暮らしていくためには、区民の皆さん、公的機関、関係団体等それぞれがつながりあい、できることを協力しながら福祉保健活動の基盤や仕組みづくりを行う「地域福祉保健計画」はますます必要です。

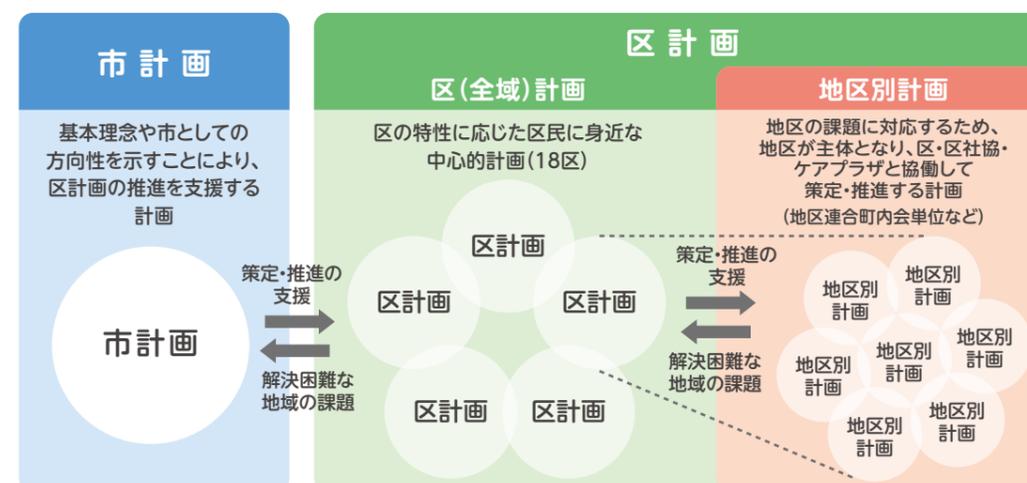
●計画の法的位置づけ

社会福祉法107条で、地域福祉の推進に関する事項を定める計画として、「市町村地域福祉計画」が位置付けられており、また、社会福祉協議会においても、同法109条において、社会福祉活動計画を定めることとなっています。

横浜市では福祉と保健の取組を一体的に進めていくため、横浜市及び18区において、社会福祉協議会と連携して「地域福祉保健計画」を策定しています。

●計画の構成

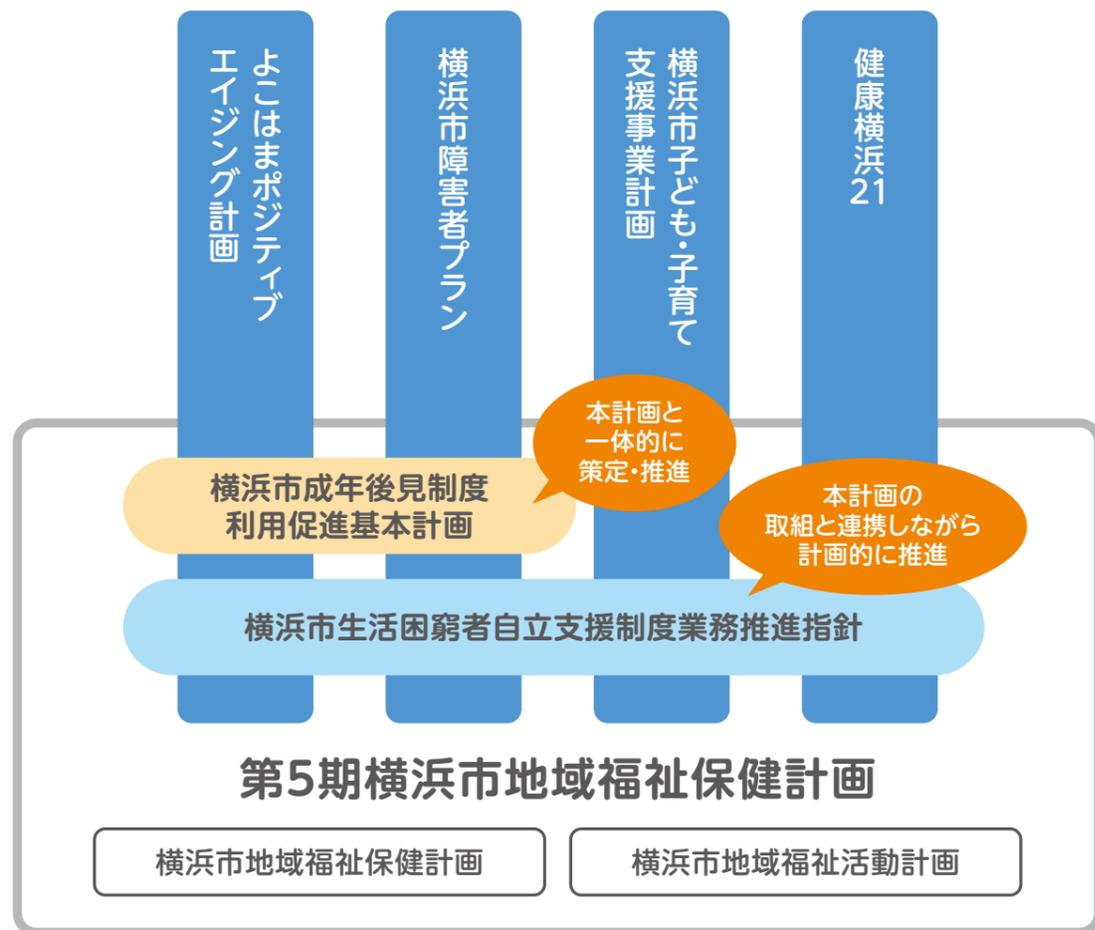
横浜市地域福祉保健計画の方向性をもとに、磯子区地域福祉保健計画を策定しています。



●他の行政計画との関係性

横浜市では、各法を根拠とする高齢・障害・子ども・健康づくり等の分野別計画を策定しています。地域福祉保健計画は、それぞれの分野別計画を「地域」の視点でつなぎ、横断的に展開していく仕組みづくりの役割を果たします。

また、第4期計画からは、権利擁護及び生活困窮に対する取組が、地域福祉保健計画の趣旨と重なるため、一体的に推進しています。

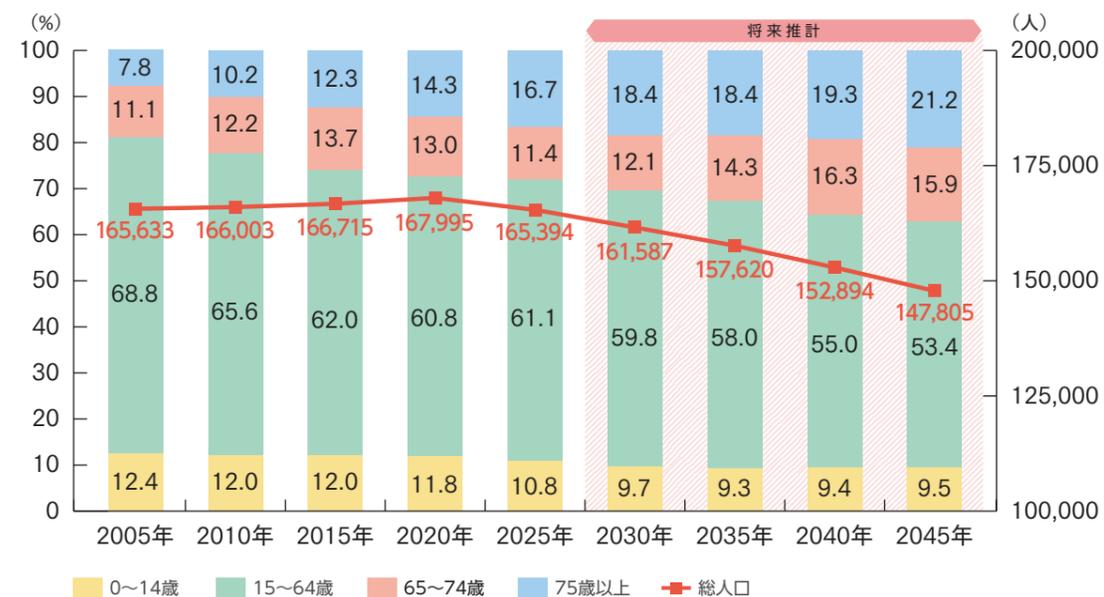


(2) 磯子区の現状

※グラフ内に「横浜市」の記載がないデータはすべて磯子区の数値です。

人口と世帯の推移

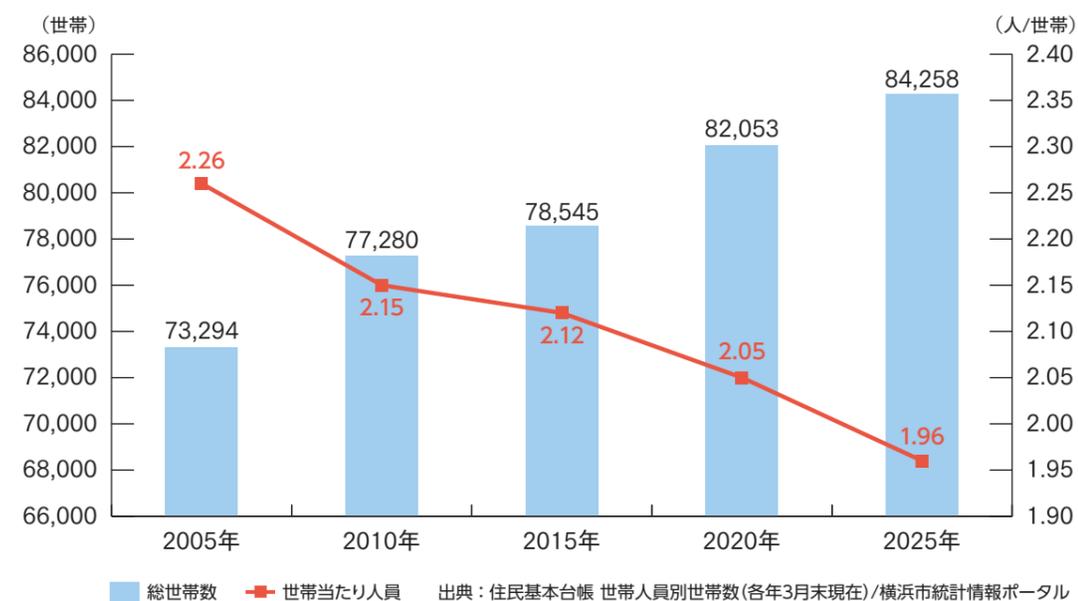
【人口と年齢4区分人口の構成比と将来推計】



出典：2005～2025年：住民基本台帳 年齢別人口（各年3月末現在）/横浜市統計情報ポータル
2030～2045年：横浜市将来推計人口（2024年7月）/横浜市統計情報ポータル

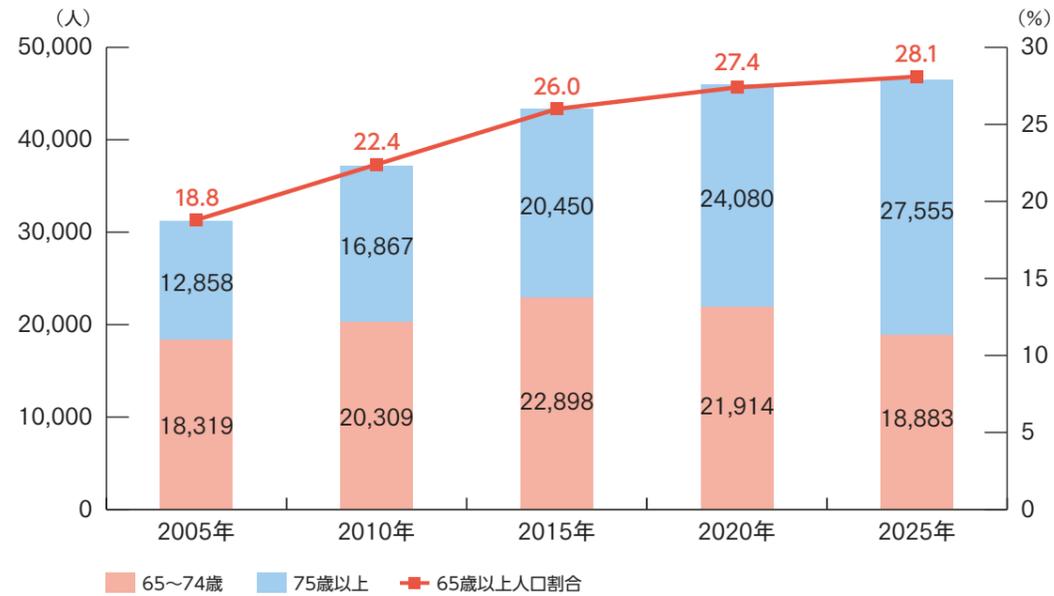
総人口は2020年をピークに減少傾向となり、2045年は2020年と比較して、約2万人減少（12%減）となると推計されています。今後、さらに高齢化が進むと予測されます。

【世帯数と世帯当たりの人員】



世帯当たり人員数が減少する一方、世帯数は増加傾向にあります。

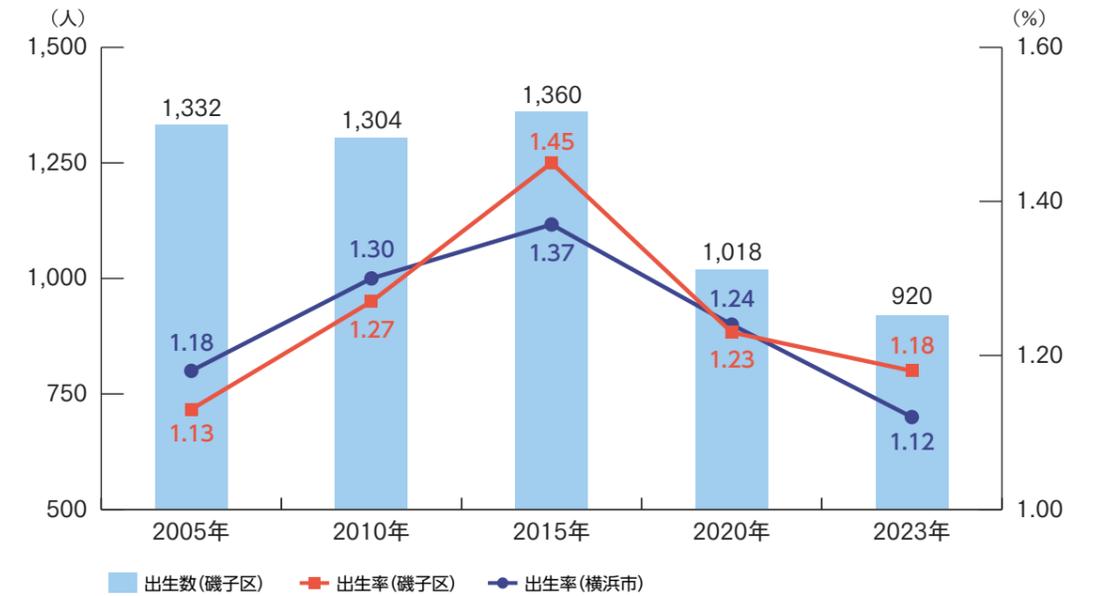
【高齢者人口と高齢化率】



出典：住民基本台帳 年齢別人口(各年3月末現在)/横浜市統計情報ポータル

高齢者は増加しており、中でも75歳以上は一貫して増え続けています。

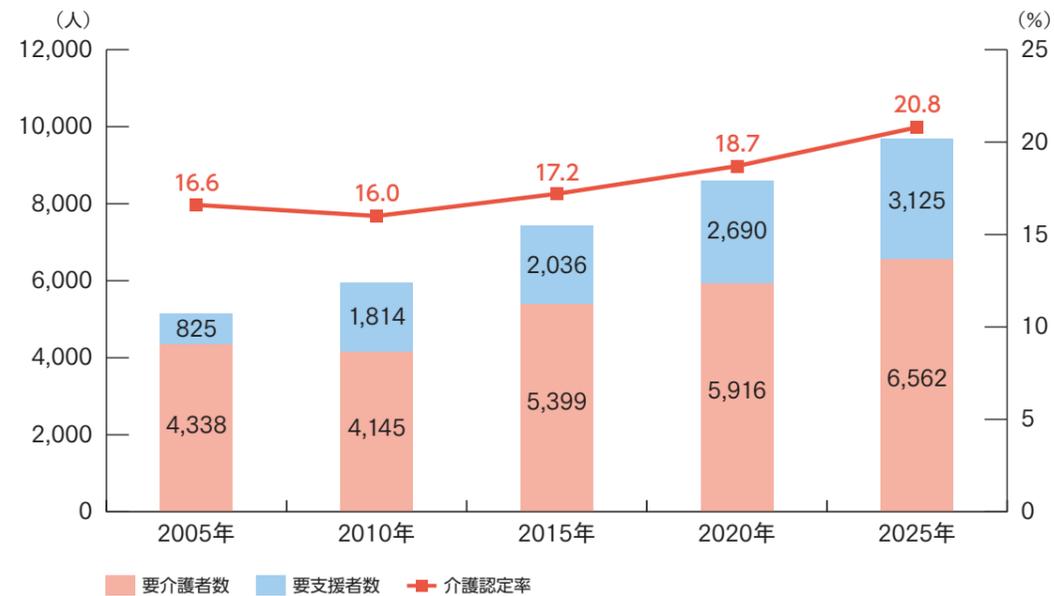
【こども(出生数と出生率)】



出典：出生数:横浜市統計書 福祉保健センター別人口動態(各年年間)/横浜市統計情報ポータル
出生率:合計特殊出生率の推移(各年年間)/横浜市統計情報ポータル

こどもの出生率は、2015年までは上昇傾向でしたが、それ以降は減少しています。

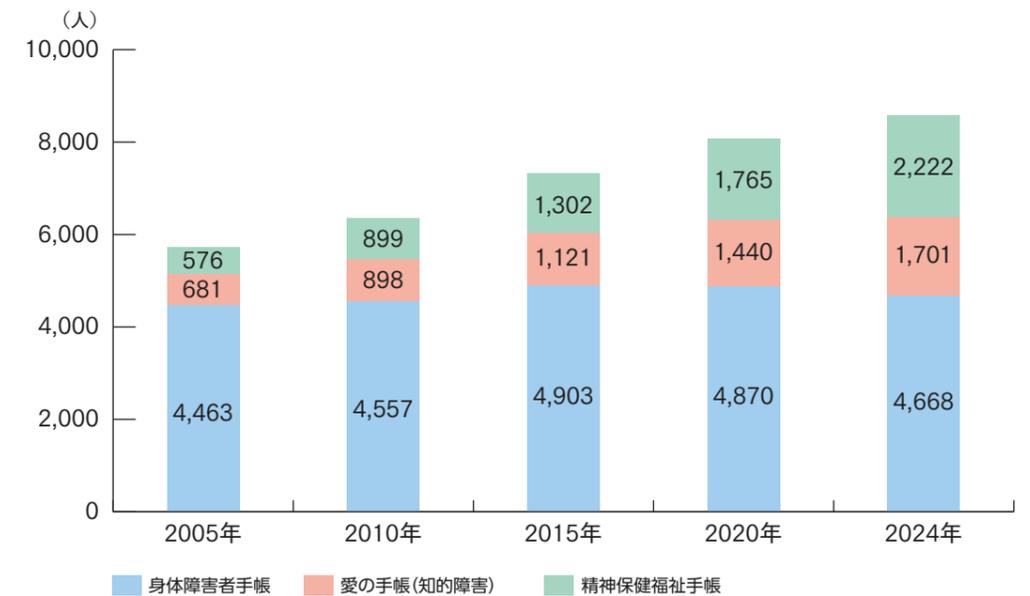
【高齢者(要支援・要介護認定者数)】



出典：横浜市統計書 要介護度別認定状況(各年3月末現在)/横浜市統計情報ポータル

要支援・要介護認定者の合計数は増え続けています。

【障害者(障害者手帳所持者数)】

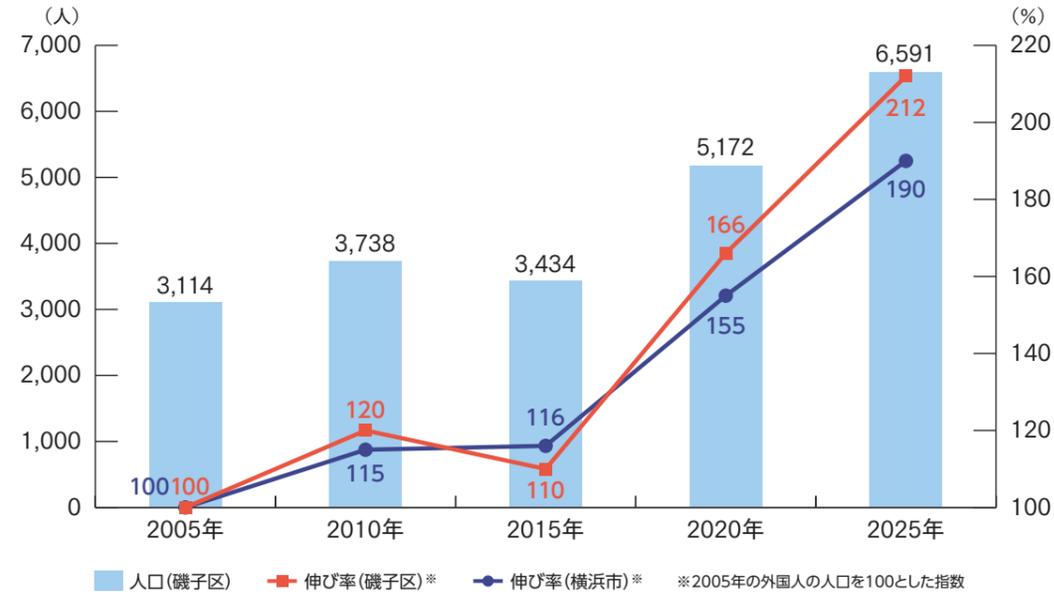


出典：横浜市統計書 障害者の福祉(各年3月末現在)/横浜市統計情報ポータル

愛の手帳(知的障害)や精神保健福祉手帳の交付が増加しています。

対象者別

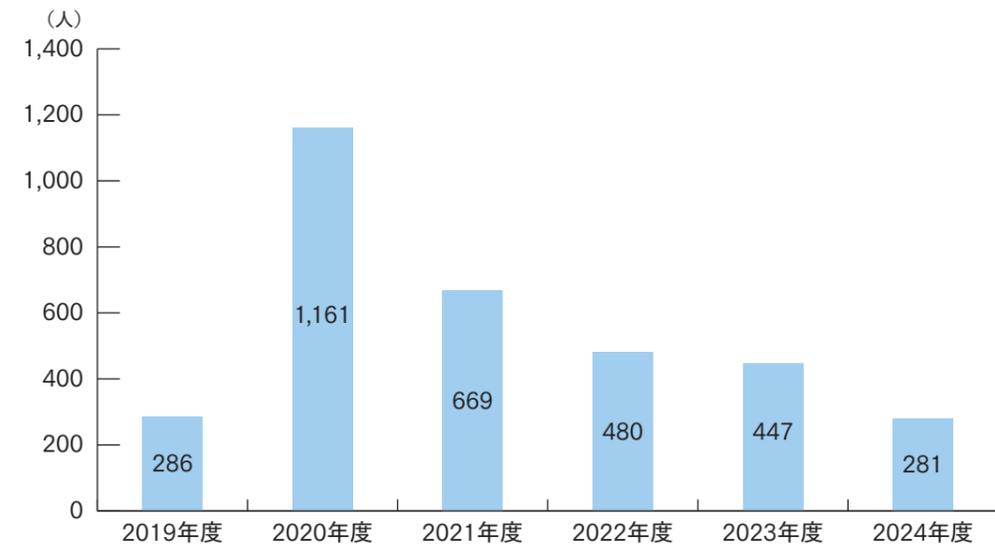
【外国人人口】



出典：住民基本台帳 外国人の人口(各年3月末現在)/横浜市統計情報ポータル

外国人の人口は2015年から増え続けています。

【生活困窮相談件数*】



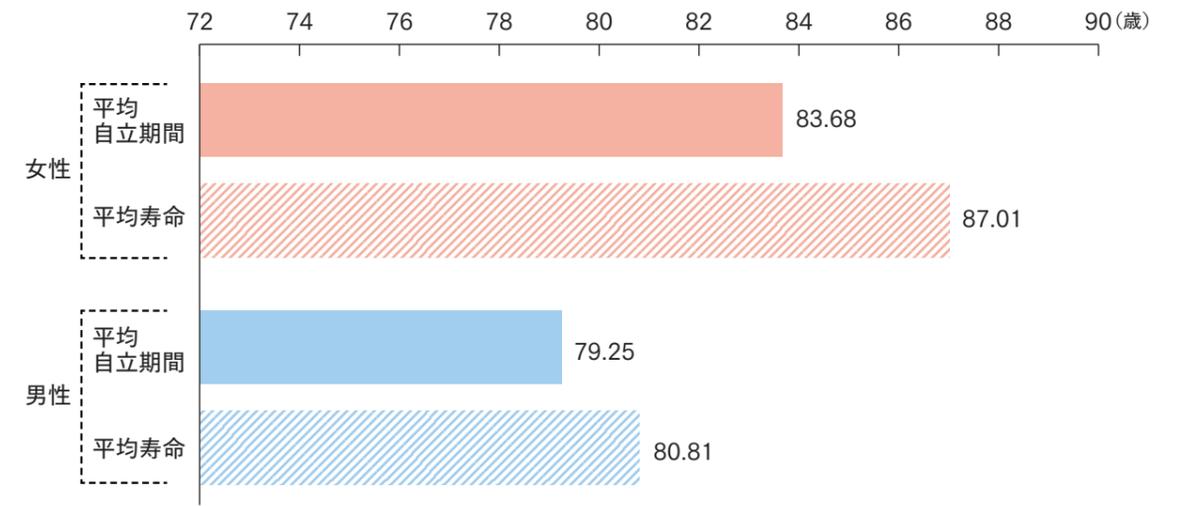
*生活困窮者自立支援制度における自立相談支援事業の新規相談件数

出典：磯子区の福祉と保健衛生(各年度)/磯子区ウェブページ

生活困窮相談件数は、2020年度のコロナ禍で大幅に増加しましたが、その後は減少傾向にあり、現在はコロナ前と同等の水準となっています。

健康

【平均寿命と平均自立期間】

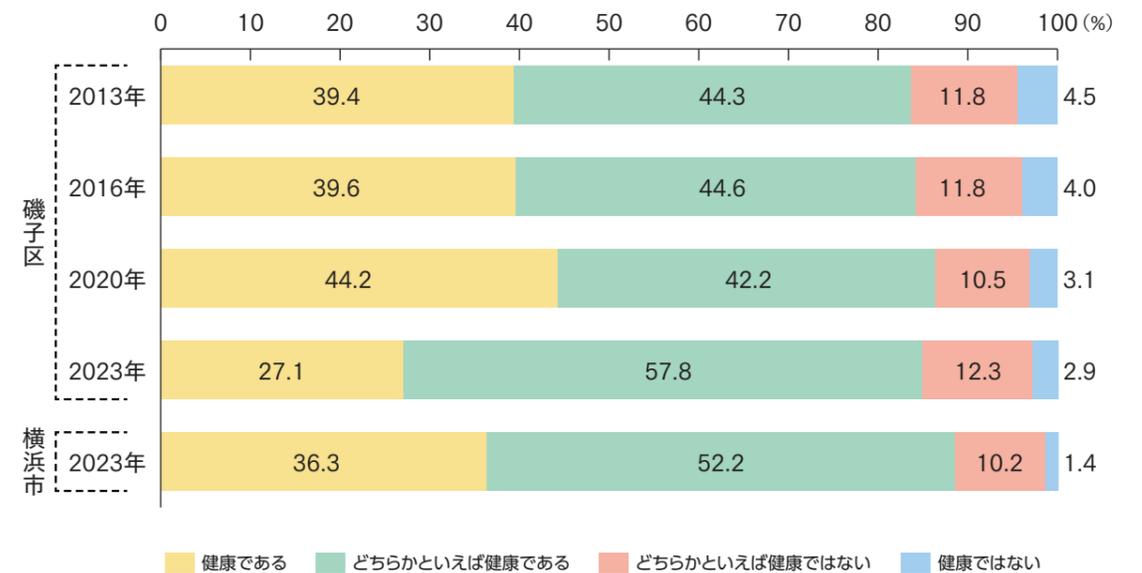


*平均自立期間とは、「日常生活に介護を要しない期間の平均」を指し、介護保険法の要介護認定における「要介護2~5」を介護を要する状態として、市が保有する介護保険データから算出
*平均寿命とは、「生まれてから亡くなるまでの期間」を指し、厚生労働省研究班が公開している「健康寿命算定プログラム」を用いて横浜市独自に算出

出典：横浜市推計(2023年)/市健康福祉局健康推進課

男性は女性に比べ、平均自立期間は4年ほど短くなっています。

【主観的健康観】



出典：健康に関する市民意識調査(2013・2016年：夏、2020・2023年：冬)/横浜市ウェブページ

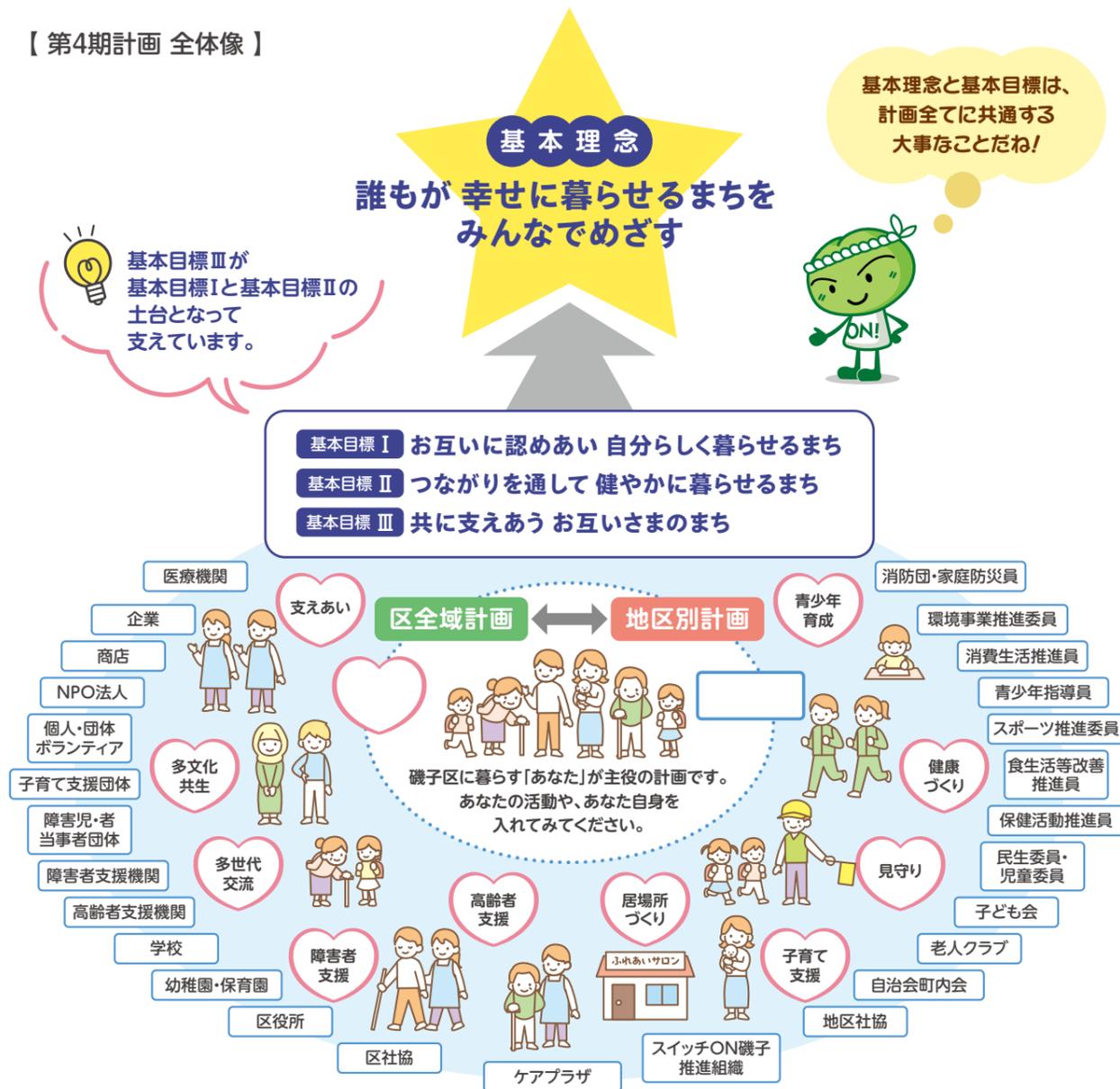
「健康である」「どちらかといえば健康である」を合わせた割合は大きな変化はありませんが、2023年における磯子区は、「健康である」と感じている人の割合がこれまでと比べて低くなっています。

(3) 第4期計画の振り返りと第5期計画の方向性

●第4期計画の振り返り

第4期計画では新たに、基本理念「誰もが幸せに暮らせるまちをみんなでめざす」のもと、3つの基本目標を掲げました。「誰もが」には、年齢・性別・国籍・病気や障害の有無に関わらず、また、赤ちゃんから学童期、働く世代や子育て世代、リタイヤした世代から高齢者等のあらゆるライフサイクルが含まれるという意味を含め、磯子区に暮らす「あなた」が主役の計画という位置づけとしました。

【第4期計画 全体像】



基本理念と基本目標は、
計画全てに共通する
大事なことだね!

基本目標Ⅲが
基本目標Ⅰと基本目標Ⅱの
土台となって
支えています。

基本理念
誰もが幸せに暮らせるまちを
みんなでめざす

- 基本目標Ⅰ お互いに認めあい自分らしく暮らせるまち
- 基本目標Ⅱ つながりを通して健やかに暮らせるまち
- 基本目標Ⅲ 共に支えあうお互いさまのまち

区全域計画 ↔ 地区別計画

磯子区に暮らす「あなた」が主役の計画です。
あなたの活動や、あなた自身を
入れてみてください。



スイッチON磯子は、
誰もが「世代」や「属性」に関わらず、
磯子区に関わるみんなが
取り組める計画だね。

社会状況

新型コロナウイルス感染症の流行により、日常生活に様々な影響・変化がありました。特に、スイッチON磯子の推進に欠かせない地域活動においても、感染防止のため人と人が距離をとることが求められ、休止や変更を余儀なくされました。令和3年度横浜市意識調査では、新型コロナウイルス感染症の影響により地域の人とのつながりが減った割合は、全体で40%を超え、地域の人とのかかわりが少なくなったことが確認できます。

地域の状況

地域で活動する皆さんに第4期計画(令和3~7年度)の活動について「グループインタビュー」と「アンケート」を実施しました(4章 資料編「1 策定の経過」参照)。それらを踏まえ、以下のキーワードにまとめました。

●第5期計画の方向性

キーワード 「認めあう」

- コロナ禍で人や地域とのつながりが希薄になった経験を踏まえ、地域に住むどんな人とも、まずは知り、認めあうことが、つながりづくりの第一歩だということを改めて重視します。
- 第5期横浜市地域福祉保健計画で、「自分らしく暮らす」ためには、「受け入れられている」、「『ここにいていい』と感じられること」が必要だとしています。同じまちの中で一人ひとりの多様性を広く受け入れ認めあうことで、自分らしく暮らす地域社会をめざします。

キーワード 「つながる、健やか」

- 地域の行事などに出ることで、自身と社会のつながりの場になって、居場所や社会貢献、いきがいにつながるというエピソードが多くなりました。つながりを通して心身ともに健やかになることをめざします。

キーワード 「支えあう」

- 近所で会ったときのあいさつや、地域の行事などに出ることでうまれたつながりから、共に支えあう関係や地域活動をする人が増えていくことをめざします。



まずはお互いを知り、
地域の行事などに出ることでつながりが増えて、
ともに支えあう関係性になっていくんだね!

2章 第5期スイッチON磯子について

(1) 基本理念と基本目標

第4期計画の振り返りの中で、コロナ禍によって地域活動が停滞したことなどから、人や地域のつながりが大切と再認識がありました。

このことから、つながりを作るためにまずはお互いを知り、例えば地域の行事などに出ることで、ともに支えあう関係性になっていく順序に着目します。まずは身近な人のことを知り、顔見知りになった先に地域とのつながりがあり、地域とのつながりが心身の健康と支えあいの関係となっていくことを基本目標に表現しました。

なお、基本理念は大きく変わるものではないということ、区民の皆さんに定着していくよう、第4期計画から継続することとしています。

基本理念

誰もが幸せに暮らせるまちを みんなでめざす



スイッチON磯子の基本理念が引き続き定着していくよう、第4期計画から継続します！

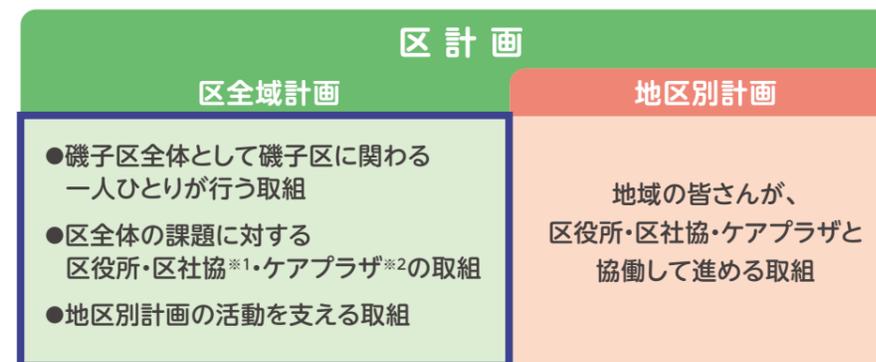
基本目標

- I お互いに認めあい 自分らしく暮らせるまち
- II つながりを通して 健やかに暮らせるまち
- III 共に支えあう お互いさまのまち

	基本目標	目標のイメージ
I	お互いに認めあい 自分らしく暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> ●自分のことも周りの人のことも認め、大切にしている・されている ●好きなこと、できることを生かして自分らしく暮らしている ●身近なところに居場所や参加の入口がある
II	つながりを通して 健やかに暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> ●必要とする人に情報や支援が届いている ●みんなが地域とつながる機会がある ●地域で得意を生かす場がある ●身近な健康づくりに取り組める場がある ●心と体の健康が大切という意識が高まっている
III	共に支えあう お互いさまのまち	<ul style="list-style-type: none"> ●さりげない見守りの中で、支援が必要な人もそうでない人も、安心して暮らしている ●ときに支え、支えられるという関係性や仕組みがある ●それぞれの強みを生かして協力し、活動が広がっている

(2) 区全域計画

区全域計画とは、区全体の方向を示し、区民一人ひとりから、団体・関係機関が区域全体で進めていく取組をまとめたものです。



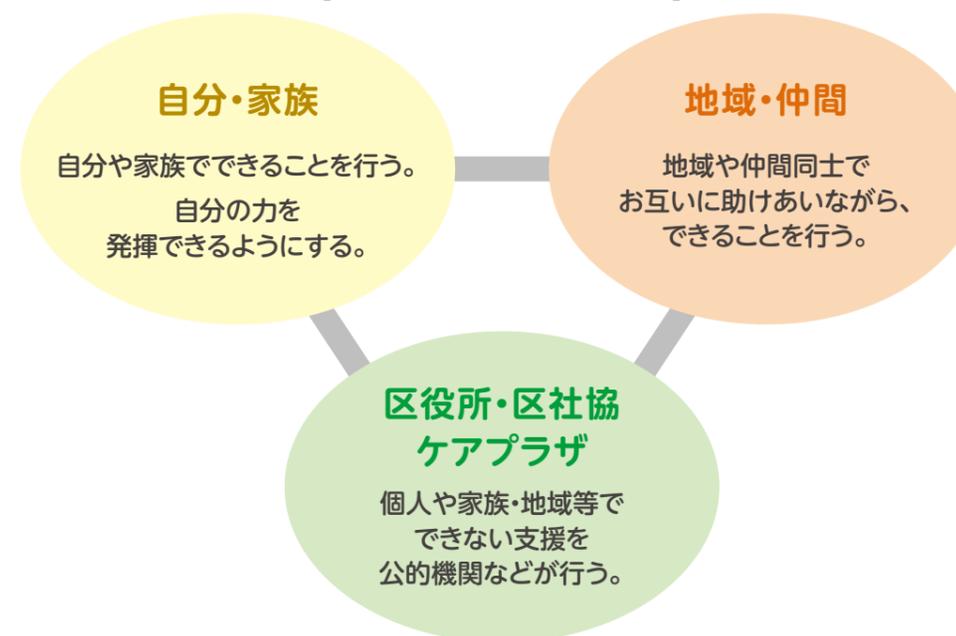
※1:区社会福祉協議会の略称 ※2:地域ケアプラザの略称

区全域計画を推進する主体

- 磯子区に関わる一人ひとり(私たち一人ひとり、地域や仲間)
- 区役所・区社協・ケアプラザなどの公的機関とその関係機関

一人ひとり・地域や仲間・公的機関などそれぞれが補いあい、関連しあいながら、基本理念「誰もが安心して暮らせるまち」をめざします。

【スイッチON磯子 推進主体】



区役所・区社協・ケアプラザの取組は、「活動指標」と「めざす方向性」を明示し、基本目標を達成するために、どの程度活動したか、量的評価を行います(53ページ参照)。

目標のイメージ

- ◆自分のことも周りの人のことも認め、大切にしている・されている
- ◆好きなこと、できることを生かして自分らしく暮らしている
- ◆身近なところに居場所や参加の入口がある

一人ひとり・地域や仲間と一緒に取り組めること

- 隣近所の人へあいさつしてみよう
- 利用できる福祉サービス等を確認しておこう
- 一人ひとりの違いや個性を理解しよう
 - (区役所・区社協・ケアプラザの取組支援)
 - 「多文化共生の推進」18ページへ 「認知症サポーター養成講座」18ページへ
- 地域での居場所やイベントに参加してみよう
 - (区役所・区社協・ケアプラザの取組支援)
 - 「同じ悩みを持った人が集まる場づくり」18ページへ

エピソード



区役所・区社協・ケアプラザの取組

- 年齢や障害の有無、国籍に関わらず、違いや多様性を認めあい、様々な人が共に暮らせるよう相互理解を深めます。

事業例:区役所 多文化共生の推進

多文化共生の拠点となる「いそご多文化共生ラウンジ」(P50④参照)を中心に、地域と連携し、交流イベントや外国人住民の地域イベントへの参加促進などの取組を通じて、国籍や文化的背景に関わらず暮らしやすい地域づくりを進めます。

活動指標 多文化共生ラウンジ利用者数(イベント参加者など含む)
令和6年度:3,857人(めざす方向性:↗)



外国人住民向け防災座談会

- こどもが心身ともに健やかに成長し、養育者が安心して子育てをするために必要な知識の普及や相談しやすい環境づくりに取り組みます。

事業例:区役所 地域子育て支援拠点「いそピヨ」の運営支援

「いそピヨ」(P50①参照)では、就学前の子どもとその保護者が遊び、交流する場の提供や、子育て相談、研修会などを実施しています。令和7年度からは、月1回程度の日曜日開所(Sundayいそピヨ)も開始し、平日忙しいご家族のお出かけ先としても好評です。

活動指標 Sundayいそピヨで開催している講座などの参加者数
令和6年度:新規事業のためなし(めざす方向性:↗)



いそピヨでの様子

- 地域の福祉活動を多くの住民に知ってもらう機会を増やすと同時に、学校との連携や活動者団体同士の顔の見える関係づくりを進めます。

事業例:区社協・ケアプラザ 福祉教育

学校・地域・企業などからの相談にもとづき、福祉教育(P59参照)プログラムを実施し、幅広い区民を対象に福祉への理解・啓発を行います。

活動指標 福祉教育 実施数
令和6年度:16講座(めざす方向性:→)



車いす体験の様子

- 認知症の理解啓発など、一人ひとりがかけがえのない存在として権利と尊厳が守られ、その人らしい生活を続けられる仕組みづくりをします。

事業例:区役所・ケアプラザ 認知症サポーター養成講座

区内のケアプラザなどがキャラバン・メイトと連携し、認知症サポーター養成講座を実施します。

活動指標 認知症サポーター養成講座受講者数(累計)
令和6年度:23,312人(めざす方向性:↗)



養成講座中の寸劇の様子

- 同じ悩みを持った人や仲間が、お互いを知りあえるきっかけとなるようなつながる場・学びの場を提供します。

事業例:ケアプラザ 同じ悩みを持った人が集まる場づくり

不安な気持ちや心配事を話せるよう、同じ悩みを持った人が気軽に話したり情報交換できるつどいやカフェを実施します。

活動指標 同じ悩みを持った人が集まる場の開催数
令和6年度:159回(めざす方向性:→)



介護者の集い(イメージ)



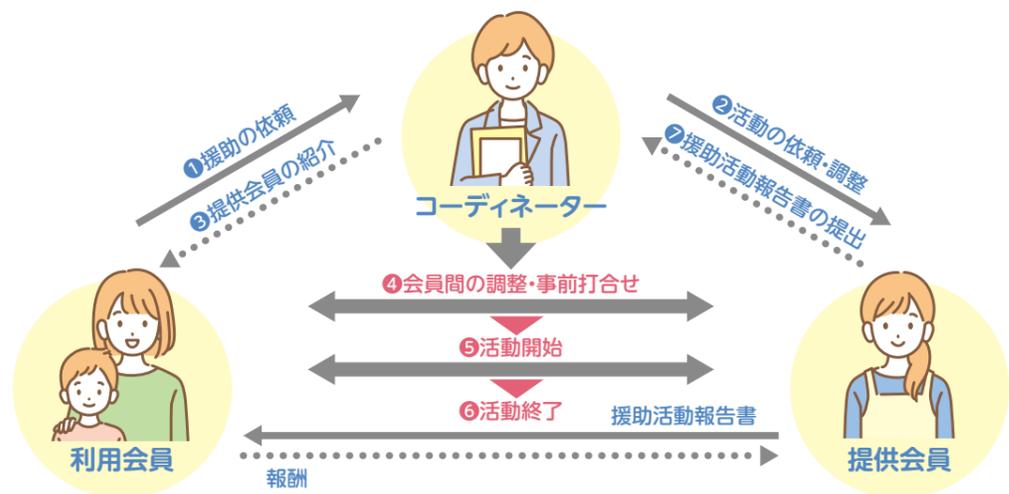
こんな取組もあります //

▶ 横浜子育てサポートシステム(通称「子サポ」)

～ 地域ぐるみでの子育て支援をめざして ～

横浜市では、こどもを預かってほしい人(利用会員)と、こどもを預かる人(提供会員)に会員登録していただき、条件の合う近隣の人との出会いをサポートする、「子サポ」を実施しています。通院や冠婚葬祭、就業等の事情による利用会員宅等での預かり、保育所や幼稚園等への送迎のほか、買い物や習い事等、リフレッシュしたり自分の時間を持ちたい場合でも利用することができます。(令和6年度末時点 利用会員685人、提供会員96人、両方会員※利用・提供ともに行う会員24人 年間活動件数3,611件)

磯子区では、磯子区地域子育て支援拠点「いそピヨ」で「子サポ」に関する手続きを行っています。
利用会員の皆さんからは、「週に1～2回利用しています。一時預かりの予約が取れない時に、助かってます」「子育ての先輩に新しい遊びを覚えてもらえることもあります」といった感謝の声が聞かれています。
また、提供会員の皆さんからは、「こどもが好きで、何かお手伝いできればと思い、提供会員になりました」「お預かりしたお子さんに地域でバツリ会って声をかけてもらうと、とても嬉しいです」「活動を通じて友達もできました」という嬉しい声も聞かれ、地域の中の支えあい・つながりづくりにもなっています。
子育て中のママ・パパをサポートしたい人、子育て経験のある人、ぜひ自分ができることを身近な地域の支えあいに役立ててみませんか?



問合せ先 地域子育て支援拠点 いそピヨ(P50①参照) [いそピヨ 子サポ](#)

▶ 「いそごでさがそ」でお気に入りを見つけよう

「いそごでさがそ」は、障害のある人が区内障害者施設にて作っている自主製品やカフェ等を写真で紹介している冊子です。
より多くの区民の人に冊子を手に取ってもらい、障害のある人が自分たちで製品を作っているこの活動について知ってほしい、障害のある人の活動を身近に感じてほしいという思いで作成しています。
各郵便局、駅のPRボックス(磯子駅、新杉田駅など)、区役所で配架中。
この冊子で、あなたのお気に入りのお菓子やグッズを見つけてみませんか?

問合せ先 区役所 高齢・障害支援課(P60参照)



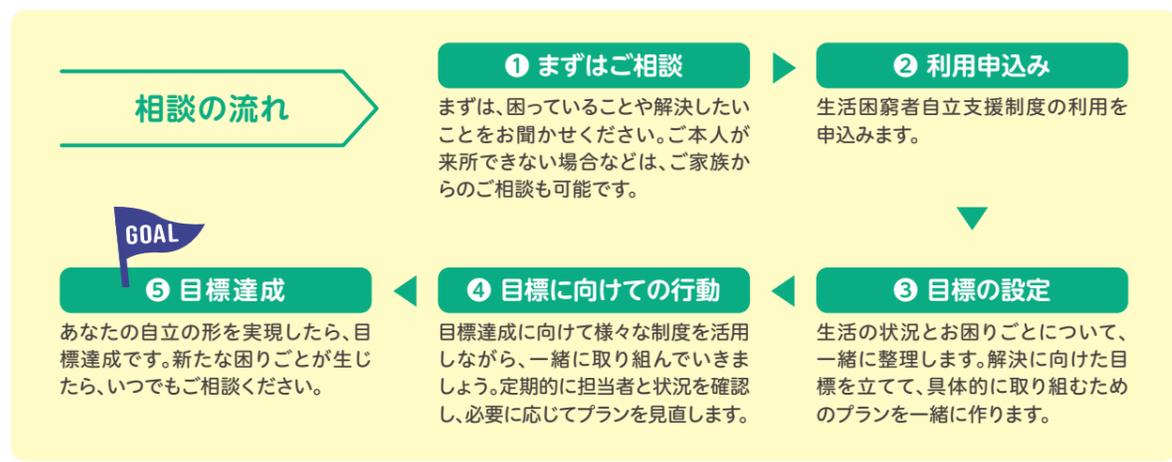
▶ 生活困窮者自立支援制度

～ 暮らしの困った! を一人で悩まず、相談してみませんか? ～

「仕事が見つからない」「家計が苦しい」「こどもの学習環境が心配」そんな声に寄り添うのが、生活困窮者自立支援制度です。お仕事探し、家計の悩みのアドバイス、一時的な衣食住の提供、こどもの学習サポート等、生活の困りごとを抱えている人に寄り添い、解決策を一緒に考えます。

「困窮」とは、経済的な困窮だけを意味しているのではなく、様々な事情により地域社会から孤立し、「相談する人がいない」という状態の人も含まれます。失業や介護・育児の困難、健康問題等、様々なきっかけで困窮状態になってしまうこともあります。

生活が困窮状態にある人は、自分から相談しづらいかもしれません。あなたのまわりにそんな思いを抱えている人がいたら、区役所の相談窓口(生活支援課)をご紹介ください。あなたの気づきが、誰もが安心して暮らせるまちづくりの土台となるかもしれません。



問合せ先 区役所 生活支援課(P61参照)

▶ こどもたちと地域がつながって、いいね!

～ こどもたちが主役となる地域の活動をはぐくむ ～

近年、こどもたちと地域とのつながりが少なくなっているという声があります。
そこで、地域や団体・学校等がサポートし、こどもたちが役割を持ち、楽しみながら関わられるような活動に取り組んでいる地域もあります。

こどもたちはワクワクした楽しいことが大好きです。
地域のハロウィンのお手伝いや、季節のイベント企画等、ちょっとしたワクワク体験が「やってみよう!」「自分にもできる!」につながり、主体性も育まれます。大人が温かく見守り、こどもの声を取り入れることで、地域もこどもも元気になります。

こうした温かいつながりが、地域の中で“こどもたちが主役となる場”や、“こどもたちの主体的な活動”を作っていくきっかけになるのではないのでしょうか。



きっずマーケット

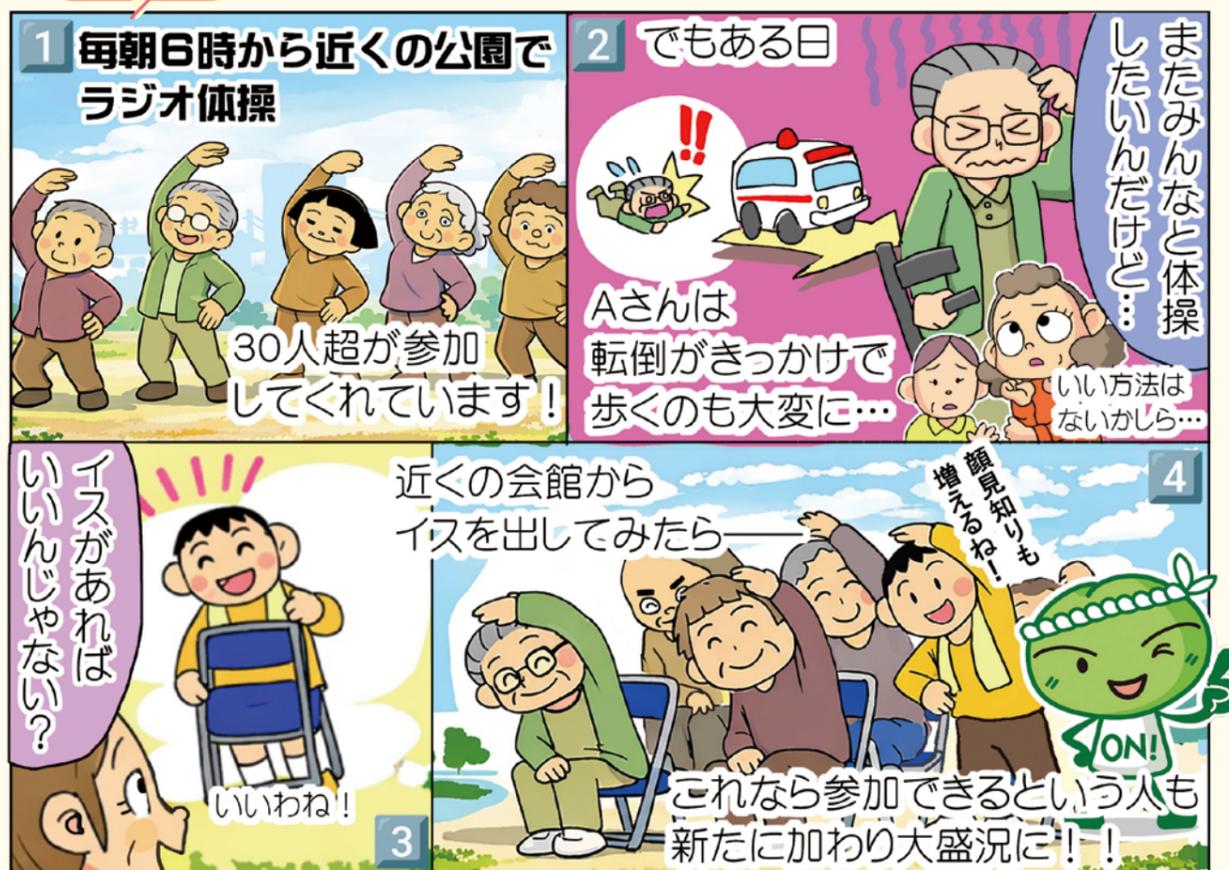
目標のイメージ

- ◆必要とする人に情報や支援が届く ◆みんなが地域とつながる機会がある
- ◆地域で得意を生かす場がある ◆身近な健康づくりに取り組める場がある
- ◆心と体の健康が大切という意識が高まっている

一人ひとり・地域や仲間と一緒に取り組めること

- 地域の情報等に関心を持つ ●定期的に健康診断や歯科検診に行こう
- ウォーキング等できることからやってみよう
- 健康づくりのイベントや講座等に参加してみよう
→(区役所・区社協・ケアプラザの取組支援)「ポッチャなどインクルーシブスポーツの取組」22ページへ
- 伝える人に合わせた情報の届け方を考えよう
→(区役所・区社協・ケアプラザの取組支援)「自治会町内会のデジタル化」24ページへ
- ボランティア活動等で自分ができることをやってみよう
→(区役所・区社協・ケアプラザの取組支援)「ボランティアセンター」22ページへ 「こども食堂の取組」24ページへ

エピソード



区役所・区社協・ケアプラザの取組

- 健康づくりや介護予防活動等に参加する人や関心を持つ人を増やし、人材育成につなげます。

事業例:区役所 フレイル予防サポーター養成講座

地域で健康づくり・介護予防の取組を推進する人材を育成し、フレイル予防の普及啓発や地域活動の活性化をめざします。

活動指標 フレイル予防サポーター登録者数(累計)
令和6年度:38人(めざす方向性:↗)



磯子区フレイル予防サポーターの皆さん

- 得意なことを生かせる機会や場の紹介や、活動を広げていけるよう支援します。

事業例:区社協 ボランティアセンターの運営

ボランティアに関係する相談やコーディネートを行うほか、人材育成やネットワークづくりを行います。

活動指標 ボランティア登録数
令和6年度:260人・48グループ(めざす方向性:→)



ボランティアセンター受付

- すべての年代の人が、心身の健康づくりに継続して取り組めるよう、身近な地域でつながりを増やしながらか、健康づくりの活動を広げていけるよう支援します。

事業例:ケアプラザ ポッチャなどインクルーシブスポーツの取組

世代や障害の有無に関わらずできるスポーツ(=インクルーシブスポーツ P59参照)や、健康づくりの取組を実施します。

活動指標 世代や障害の有無に関わらずできる健康づくりの取組回数
令和6年度:72回(めざす方向性:→)



ポッチャ大会の様子

- 地域の福祉保健に関する情報や地域情報などについて、情報発信・収集・活用ができるよう推進します。

事業例:区役所 出張!健康づくり応援隊

働き世代の区民の皆さんを対象に、食育・歯科口腔・運動・禁煙・検診・感染症の予防に関する啓発を保健活動推進員(P51参照)や区内企業などと連携して行います。

活動指標 出張!健康づくり応援隊参加人数
令和6年度:350人(めざす方向性:↗)



保健活動推進員による血管年齢測定

- 身近な地域や場所で、区民の皆さんにとって必要な情報を届けます。

事業例:ケアプラザ 地域主催の講座などでの情報提供

ケアプラザ以外の会場や地域主催のサロン等、ケアプラザ職員が出向き、様々な機会を捉えて介護予防・健康・詐欺防止等の情報を伝えます。

活動指標 地域主催の講座等での情報提供の回数
令和6年度:184回(めざす方向性:→)



ケアプラザの出張講座



▶ 区民の口の健康を守る!

区役所では毎年6月の「歯と口の健康週間」に合わせ、磯子区歯科医師会と連携して、歯とお口の健康に関するイベントを実施しています。

歯ブラシ等の使い方から、噛む力の測定、歯科医師・歯科衛生士の無料相談まで、体験メニューが豊富で、参加者からは「噛むことの大切さを知ることができた」「こどもにもパネルや映像を見せたい」との声も。

ひとりでも多くの区民の人に、お口の健康の大切さが伝わるよう、今後も歯科医師会とともに取り組んでいきます。

問合せ先 区役所 福祉保健課(P60参照)



出張! 健康づくり応援隊

▶ 磯子の魅力発信ポータルサイト「ISOGO+」を使ってまちに出てみよう

「ISOGO+」(いそごぶらす、“いそぶら”)は、磯子のまちを「ぶらぶら」と歩きたくなる情報が集まるプラットフォームとして、様々な地域の魅力をお届けしています。

みんなのおすすめスポットやまち歩き情報、地域に根付き愛されている「磯子の逸品」を紹介。区制100周年を契機に磯子への愛着や誇りを深め、魅力と活気が未来へと続いていくまちをめざします。

問合せ先 区役所 区政推進課(P61参照)



ISOGO+ 【いそごぶらす】
<https://isogoplus.city.yokohama.lg.jp/>



▶ 自治会町内会のデジタル化が進んでいます!

区役所では、自治会町内会へICTの専門的なアドバイザーによる出張講座や相談会を開催し、自治会町内会の情報発信等のデジタル化をお手伝いしています。

デジタル化の第一歩を考えている自治会町内会には、初心者向けスマホ講座を開催したり、さらに活用を考えている自治会町内会には、ホームページ作成やLINEなどのSNS情報発信ツール導入のサポートを行い、事務の効率化に役立てています。防災意識の高まりもあり、今後、連絡ツールとしてデジタル化の活用が想定されます。まずは自治会町内会の情報のデジタル化について、関心を持ってもらえるように考えてみませんか?



アドバイザーによるスマホ講習会

問合せ先 区役所 地域振興課(P61参照)



ホームページの開設

▶ こども食堂の取組 ～お腹も心もいっぱい～

かつて、新型コロナウイルス感染症の影響で活動休止を余儀なくされたこども食堂がありました。その後、コロナ禍が収束しても再開は難しいかと思われていましたが、こども食堂に参加していた保護者が当時のボランティアに「とても素敵な場所だったので、ぜひ復活させてほしい。私も手伝います!」と声をかけてくださったことから、再開が実現しました。

生まれ変わったそのこども食堂はたくさんのボランティアに支えられています。再開を待ちわびていたボランティア、郵便局やコンビニエンスストア、掲示板等に貼った募集チラシを見て連絡をしてくださった人、以前こどもがお世話になったから今回一肌脱ごう!と参加してくださる人もいます。

みんなが負担感なく楽しく活動できるよう、調理担当、ホール担当、後片付け担当等々、細かく分担を分けて短時間だけのボランティアもできるよう工夫もしています。そのため、自分の得意や好きなことを生かして無理なく活動でき、19歳から80歳までが和気あいあいと活動しています。

今月もこどもたちのにぎやかな声が聞こえます。
「お腹も心もいっぱい。」

今参加してくれているこどもたちが、楽しかった思い出を胸にいつか地域で活躍してくれることを期待して、おいしい食事と楽しい空間をつくり続けます。



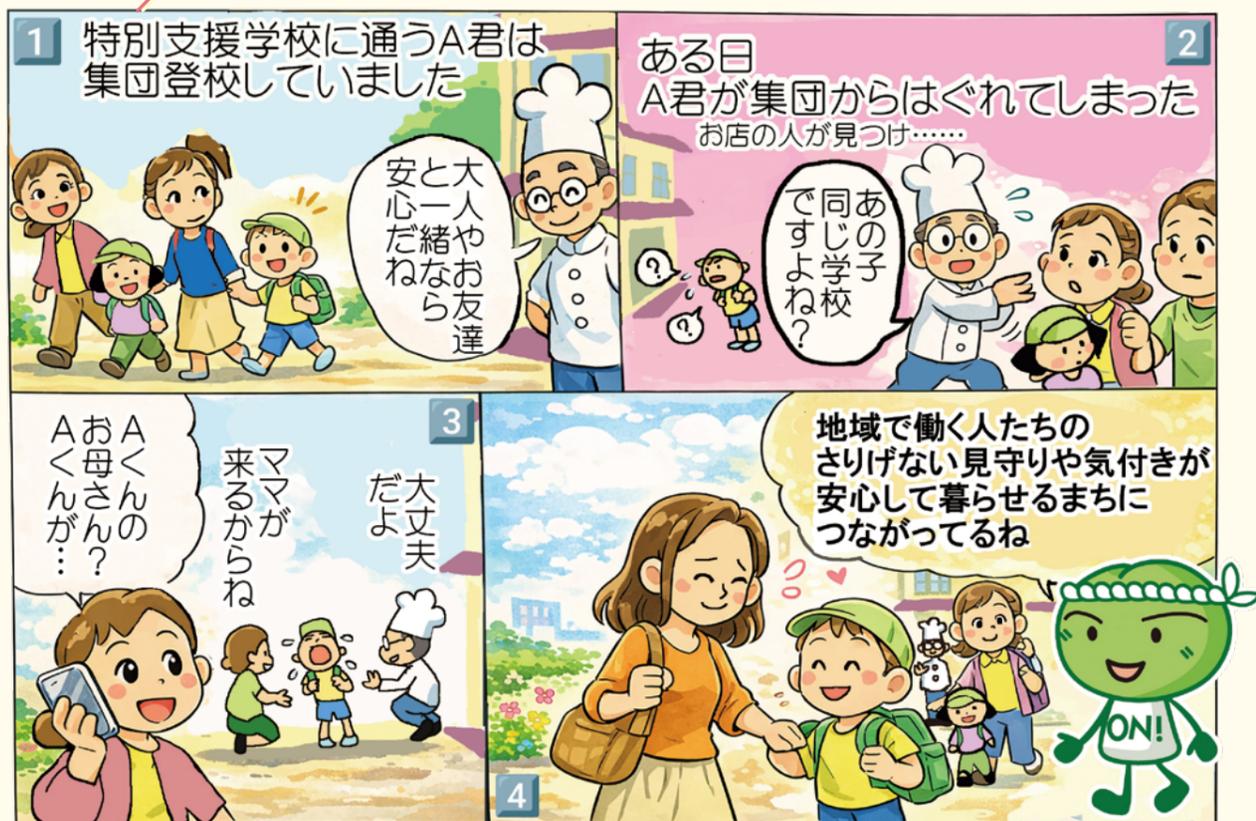
目標のイメージ

- ◆さりげない見守りの中で、支援が必要な人もそうでない人も、安心して暮らしている
- ◆ときに支え、支えられるという関係性や仕組みがある
- ◆それぞれの強みを生かし協力し、活動が広がっている

一人ひとり・地域や仲間と一緒に取り組めること

- 困ったときはお互いさまの気持ちで、日常生活でのちょっとした困りごとを手伝ってみよう
- 隣近所の人の様子を気にかけてよう
- 災害時に隣近所の人と連携してできることを考えよう
→(区役所・区社協・ケアプラザの取組支援)「防災講座」26ページへ
- 強みを生かして地域の活動を盛り上げていこう
→(区役所・区社協・ケアプラザの取組支援)「ボランティア交流支援」27ページへ

エピソード



区役所・区社協・ケアプラザの取組

- 民生委員・児童委員、自治会町内会等の見守り支えあいなどを通して、顔の見える関係づくりや支援の必要な人が専門機関の相談につながるよう支援します。



民生委員・児童委員の訪問

事業例:区役所・区社協・ケアプラザ 民生委員・児童委員の活動支援

身近な福祉の相談役である民生委員・児童委員(P51参照)が活動しやすくなるよう支援制度に係る情報提供や研修・広報のサポート等に取り組みます。

活動指標 民生委員・児童委員による高齢者等の訪問件数
令和6年度:34,841人(めざす方向性:→)

- 地域活動を活発にするために、活動する人の育成とともに、こどものころから地域とつながる機会を提供します。



学生ボランティアの活動

事業例:区役所 若者世代へのボランティア活動支援

ボランティアに興味がある若者世代を地域に派遣することにより、活動のやりがいや楽しさを感じてもらい、地域活動の参加者の裾野を広げます。

活動指標 ボランティア派遣人数
令和6年度:237人(めざす方向性:↗)

- 防災や災害対策について広報し、区民一人ひとりの防災意識を高める「自助」「共助」の取組を啓発するとともに、ボランティアや関係機関とのネットワークを強化していきます。



自治会館での防災講座

事業例:区役所 防災講座

大規模地震や風水害等に対する備えや避難行動等に関する講座を、地域・小中学校・各種団体・事業所等に対し実施します。

活動指標 防災アンケート
「災害に備えて3日以上防災備蓄を行っている」回答した人の割合
令和6年度:活動指標なし(めざす方向性:↗)

- 地域に関わる人みんなで話しあい、考えるプロセスを大切に、地域課題の解決に向けた取組を進めます。



施設つながる交流会

事業例:区社協 施設×地域 ISOGOつながるネットワーク

社会福祉法人、福祉施設等の地域貢献活動や災害時の施設・地域連携等をめざし、話しあいを行います。

活動指標 社会福祉法人、福祉施設等の参加団体数
令和6年度:新規事業のためなし(めざす方向性:→)

●区内企業と連携した地域活動や、福祉保健・文化施設等の様々な関係機関と協働しながら、誰でも参加できる交流の場や横のつながりを広げます。

事業例：区社協 **タクシー会社等との連携による移動支援**

身体的な理由等で外出が難しい人が地域のサロン等に参加しやすくなるため、タクシー会社等と連携して、会場までの移動支援を地区単位で行います。

活動指標 移動支援件数
令和6年度：2地区（めざす方向性：→）



タクシーを利用した移動支援

●区内の個人・団体・企業等から寄せられる寄付を寄付者の意向に基づき適切に配分し、寄付文化を推進します。

事業例：区社協 **善意銀行・共同募金**

区内の個人・団体・企業等からの寄付金を寄付者の意向に基づき、区内の地域福祉活動団体や障害者団体等に配分します。（善意銀行についてはP59参照）

活動指標 寄付団体数
令和6年度：85件（めざす方向性：↗）



寄付物品

●地域の仲間が増えるよう、活動に参加しやすい情報の周知を支援します。また、地域で活動する人がモチベーションを維持できるよう、活動周知や活動者・サポーター同士がつながるきっかけづくりを支援します。

事業例：ケアプラザ **ボランティアの交流支援**

地域で活動する人が情報交換し、お互いにつながりあう交流のきっかけづくりを行います。

活動指標 ボランティアの交流の回数
令和6年度：52回（めざす方向性：→）



ボランティア交流会



▶ **在宅避難のすすめ**

地震や風水害が起きたとき、自宅が安全であれば、無理に避難所に行く必要はありません。

区役所では、災害時に在宅避難するための準備や、在宅避難できない場合の避難行動、地区連合別の避難所を示した地図を記載したリーフレットを作成しています。

「何を備えておけばいいか一覧になっていて分かりやすい」
「いざという時にどこの避難所にいけばいいかが一目でわかるので便利」
「こういうのが欲しかった」などと好評の声も。

飲料水、食料、トイレパック等の備蓄品や、家具の転倒防止、感震ブレーカー等の自宅の安全対策を確認しましょう！

リーフレットは区役所総務課の窓口で配布しています。

問合せ先 区役所 総務課危機管理・地域防災担当（P61参照）



在宅避難リーフレット

▶ **災害時の共助 ～日頃のつながりが、災害時の助けあいに～**

2024年の能登半島沖地震では、地域での日頃のつながりが命を守る力になりました。

珠洲市三崎町寺家下出地区では、地震発生から約25分後に津波が襲来しましたが、住民約90人全員が高台の集会所へ避難し、命を守ることができました。この成果の背景には、住民同士の声かけや助けあいが自然に行われる関係性だったことや、普段から集会所で交流を深めていたことも迅速な避難につながりました。

鵜川地区でも、地震で家が倒れた人を近所の人たちが協力して助け出しました。東日本大震災の教訓を受けて、避難訓練を継続して実施したこともあり、住民同士がすぐに安否確認を行い、協力して救出活動を実施。障害のある人も含めて避難できました。（出典：内閣府「防災情報のページ」）

磯子区では、地域で暮らす知的障害のある人のお父さんが入院した際、ご近所の方が代わりにごみ出しをしてくれ、災害時には近隣同士でペアを組み、互いに助けあおうと約束しているという例があります。

このように、日頃からご近所同士で気かけあう関係が築かれている地域では、災害時にも自然と助けあいが生まれやすくなります。日常の中での小さな支えあいが、非常時の大きな力となることを忘れないようにしましょう。



ゆるやかな見守りの輪を広げる

～企業と連携した地域福祉の新たなかたち「いそまる」～

令和4年から始まった見守りネットワーク事業「いそまる」は、企業による地域貢献活動として、区内で着実に広がりを見せています。企業の社員が通勤途中や外出の際に地域住民とあいさつを交わしたり、業務を通じて先方の様子に気になることがあれば区社協へ情報提供を行うことで、必要に応じて区役所や支援機関へとつないでいく仕組みです。

この取組の特徴は、福祉とはこれまで縁のなかった企業と協定を結び、地域の変化をいち早く察知できる「ゆるやかな見守りネットワーク」を構築している点にあります。動物病院やタクシー会社、生命保険会社等、業態の異なる企業が登録しており、それぞれの業務を通じて地域の課題に気づき、福祉につながる役割を担っています。

例えば、動物病院を利用する高齢者が加齢により適正な飼育が困難になった場合、社員がその状況を察知し、支援機関へとつなぐケースもあります。また、多頭飼育の家庭等、加齢により自らSOSを発信しづらい世帯にも、動物管理の視点から少しずつ関わることができるようになりました。

企業側には、社員向けの研修を通じて福祉啓発を行っており、特殊詐欺など地域の防犯情報の提供も実施しています。今後も、見守りに協力いただける企業との協定を進め、地域全体で支えあう体制づくりをめざしていきます。

問合せ先 区社協(P61参照)



フードドライブ ～「もったいない」を、「ありがとう」へ～

各家庭で使いきれない未使用食品を持ち寄り、地域の福祉団体や施設などへ寄附する活動を「フードドライブ」といいます。磯子区では、区役所地域振興課で通年フードドライブを実施しており、食品を必要としている人へ、区社協や市内フードバンク団体を通じて、無償でお渡ししています。

「まだ食べられるのに、ごみにするのはもったいない…」と思っているあなた！環境に配慮した行動が、誰かの役に立ちます！

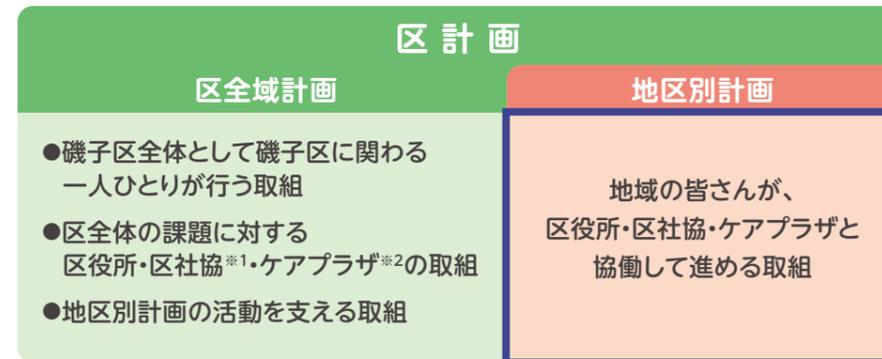
問合せ先 区役所 地域振興課(P61参照)



区役所6階フードドライブ窓口

(3) 地区別計画

地区別計画とは、9つの地区連合単位で自治会町内会、地区社協などの地域の皆さんで構成された「スイッチON推進組織」が中心となり、地区として力を入れて取り組んでいくことを中心にまとめたものです。地区別計画は、地域の皆さんが、区役所・区社協・ケアプラザと協働して進めます。



※1:区社会福祉協議会の略称 ※2:地域ケアプラザの略称

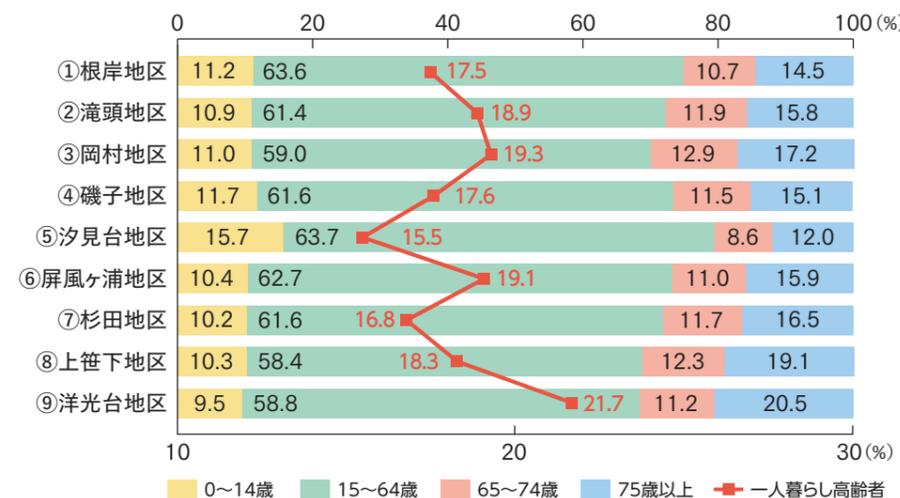
●9地区の構成



●各地区の人口と世帯数 (令和7年3月末現在)

区	人口	世帯数
①根岸地区	11,844	6,379
②滝頭地区	14,647	7,553
③岡村地区	13,445	6,507
④磯子地区	23,763	11,945
⑤汐見台地区	7,729	3,317
⑥屏風ヶ浦地区	30,081	16,015
⑦杉田地区	23,577	11,899
⑧上笹下地区	16,920	8,201
⑨洋光台地区	23,356	12,416

●各地区の年齢4区分人口の割合



出典：住民基本台帳 年齢別人口(令和7年3月末現在)/横浜市統計情報ポータル



地区の概況

- 根岸地区は、区の北東に位置し、住宅街と臨海部の工業地帯から成り、堀割川と地区を縁取る連続的な斜面緑地が広がり、ふもとは神社、仏閣が点在した落ち着いた地域です。
- 商業施設が集まるJR根岸駅周辺の地域と、古からの閑静な街並みが広がる地域があります。

人口等の特徴 人口:11,844人 世帯数:6,379世帯 令和2年からの人口増加率:0.9%(令和7年3月末現在)

人口は今後5年間で0.3ポイント増える見込みです。その後令和12~17年まで毎年0.1ポイントずつ減少していくと予測されます。年少人口の割合が区平均より0.4ポイント高く、幅広い世代が暮らしています。

進めているよ! こんな取組

- 地区内には150を超える活動があります。誰もが行ける身近な場所で、ラジオ体操、グラウンドゴルフ等の健康づくり活動、こども向けの取組などを行っています。
- 地区全体では、健民祭、防災訓練等の取組が行われており、住民同士の交流の場となっています。



様々なサロン活動



上町うらら会



東町野点



こども食堂



西町お祭り

地域の悩み・こんな町にしたい!

- 困ったとき誰かに相談できるよう、地域で住民同士がふれあえる場をつくり、顔の見える関係を築きたい!
- 若い世代や外国にルーツがある人との情報伝達や交流・親睦を深めたい!
- 地域活動にたくさんの人が参加できるよう、工夫したい!

第5期計画で力を入れたいこと

目標Ⅰ 今まで行ってきた見守りをさらに深め、みんなで互いにやさしい見守りができる根岸をめざします

- 地域に知り合いを増やし、困ったときは相談できる環境をつくれます。
- 見守りをしながら困りごとがないか声掛けします。

目標Ⅱ 継続した心と体の健康づくりができる輪を広げます

- 年齢を問わず健康づくりができるよう、地域全体で活動を共有、情報発信しながら取り組みます。
- 健康づくりを推進します。色々な事業に参加して心と体の健康を保ちます。(心の健康は体の健康!)

演奏会、小物づくり、体を動かす運動など、たくさんの人が楽しめる場です



お楽しみ会「和」

目標Ⅲ まちの困りごとを共有し、ささえあうまち根岸をめざします

- 活動の中の声を拾い上げ「ハッピー根岸」をはじめ地区全体の集まりの中で相談していきます。
- 地域が一つの家族となること(共感・尊重・信頼・助けあい)をめざします。
- 出しゃばりすぎないおせっかいができる町(生活の中での目配り、気配り)にします。
- 困りごとに地域でサポートできるよう、つながりを深めます。

活動内容を工夫し、もっとみんなが集える場をつくります

活動が継続できるよう、日頃から新たな人材づくりにつとめます

- 他の活動団体の取り組みを共有し、お互いの良いところを取り入れながら継続した活動ができるようにします。
- 地域で何かを得意にしている人を見つけて活動に協力してもらい活動の輪を広げます。

スマホをツールに、仲間同士教えあいながら学んでいます



スマホサロン

人にやさしく滝頭
～身近な地域で支えあいを広げよう～



地区の概況

- 磯子区の北端に位置し、東側には国道16号と掘割川が南北に並行して走り、川沿いの平坦な旧市街と西側の起伏のある丘陵部の住宅地からなっています。
- 人口密度は約150人/haと区内で最大のまちであり、外国にルーツのある世帯の増加とともに子育て世代の流入もあり、全体としてバランスが取れた多世代型の人口構成となっているのが特徴です。

人口等の特徴 人口:14,647人 世帯数:7,553世帯 令和2年からの人口増加率:△0.4% (令和7年3月末現在)

人口は、区内で中間的な位置を占め、令和8年から5年間は0.7ポイントの減少で、今後も人口減少が続くと予測されます。年少人口の割合・高齢人口・一人暮らし高齢者の割合などはほぼ区の平均に近く、外国にルーツのある世帯は平成28年からの10年間で急増しています。

進めているよ! こんな取組

- 「愛のお弁当」(配食活動)や「ふれあい喫茶」(多世代交流サロン)を通じて、支えあい・見守りを継続し、自治会町内会でのサロン等、顔の見える関係づくりをすすめています。
- 地区全体では、ふれあい盆踊り、健民祭・文化祭等の各種イベントや、こどもの居場所「こどもすまいるルーム」、中学校での地域交流体験学習等、こどもの健やかな成長に住民が取り組んでいます。
- 身近な自治会町内会では、サロン、焼き芋交流会、餅つき、グラウンドゴルフ、ボッチャ、ラジオ体操、吹き矢等、住民同士のつながりを重視した健康づくりにも取り組んでいます。



滝頭地区 ふれあい盆踊り



文化祭 作品づくり

地域の悩み・こんな町にしたい!

身近な場所でのサロン(茶話会)事業をはじめ、様々な活動が行われているため、参加者同士の見守りや近隣住民同士の助けあいも根付いてきています。また、外国にルーツのある人や障がい児者をはじめ多様な住民が交流できるような行事やイベントを工夫しながら実施し、地域全体のさらなるつながりをめざしていますが、一方で高齢化などによる担い手不足も課題となっています。

第5期計画で力を入れたいこと

目標Ⅰ 誰もが安心して暮らせる地域をめざし、住民同士の参加と交流をすすめます

- 地域に暮らす高齢者や外国にルーツのある人・障がいのある方など、住民相互の見守りや支えあいの輪が広がるよう、誰もが地域の行事に気軽に参加し、顔見知りになれるように工夫します。その際、近隣自治会町内会での合同実施や対象者の拡大など、実施方法も検討します。
- 災害などの際にはお互い助けあえるよう、子育て世帯や高齢者・障がいのある方などに配慮しながら、様々な機会を通じて支えあいの大切さを伝えるとともに、防災・防犯につながる取組を継続していきます。

目標Ⅱ 地域活動の輪を広げ、みんながいきいきと過ごせるまちをめざします

- 「得意」や「好き」を生かし、誰もが地域活動に参加しやすくするとともに、地域活動が一人ひとりの心身の健康や社会とのつながり・広がりとうむきっかけになることも伝えていきます。
- さまざまな組織や機関(学校・福祉施設・企業等)等とも連携し、それぞれが持つ得意分野を生かして、多様な主体が地域活動に参加できるような工夫を図ります。

目標Ⅲ 多様性を視野に入れた情報発信の方法や工夫を検討します

- 日常生活から災害等の際に至るまで、必要な情報が多様な住民にわかりやすく伝わるよう、ICT(LINE、SNS、二次元コード等)の活用を含め、多彩な方法を講じていきます。また、誰もがわかりやすい表示や表現方法となるよう検討を重ね、掲示の内容や周知方法を工夫します。



多様な住民が集う「滝頭ハロウィン」



“障がいのある方とともに”をテーマにした研修「災害に備えて」



地区の概況

- 磯子区の北西に位置し、南区と港南区に接しており、比較的起伏のある丘陵地に広がる古くからある住宅地と若い世代の戸建住宅やマンションが混在している地域です。
- 地区内には、岡村天満宮や三殿台遺跡、岡村公園、久良岐公園・能舞台等、歴史や自然を楽しめる憩いの場や施設が多く、伝統行事が受け継がれながら、交流できる場となっています。

人口等の特徴 人口:13,445人 世帯数:6,507世帯 令和2年からの人口増加率:△3.9%(令和7年3月末現在)

人口は令和8年から5年間で約4ポイント減少し、今後も人口減少が続くと予測されます。75歳以上人口・一人暮らし高齢者の割合はそれぞれ区平均を若干上回っていますが、年少人口の割合はほぼ区の平均に近くなっています。

進めているよ! こんな取組

- 「身近な場所での支えあい」のため、多くの自治会で高齢者のつどいやサロン等が開催されています。
- 「全世代の健康づくり」をめざし、防災親睦健民祭の開催や、諸団体が中心となった健康体操・歴史散歩・歩け歩け大会等も行われています。自治会単位ではグラウンドゴルフ、ラジオ体操等、地区全体で健康づくりに取り組んでいます。
- 岡村梅林梅まつり、久良岐まつり、凧あげ、桜まつり等の季節の伝統行事も盛んです。
- 地域防災では、防災スマイリングフェア・地域防災拠点での訓練等に取り組んでいます。また、女性消防隊も様々な防災活動で活躍しています。



「防災親睦健民祭」おとなも子どもも大歓声!



楽しいひととき「高齢者のつどい」

地域の悩み・こんな町にしたい!

子どもを取り巻く環境の変化等もあり、子どもや若い世代の参加が減ってきています。地域の活動はみんなで協力しながら実施していますが、ファミリー世代を含めた様々な人と情報発信の工夫をするなど、誰もが参加しやすく、つながる機会となるような取組が今後も一層必要です。

特に地域防災については、幅広い世代に関心をもってもらい、みんなで協力しあえる地域にしていきたいです。

地域のサロンや健康体操で生まれた「つながり」を大切にしながら、これからも「支えあい」「健康づくり」を継続・充実していきます。また、岡村の伝統文化や公園等の魅力を発信し、若い世代に継承しながら仲間をひろげ、「岡村愛」を地区全体で育みます。

第5期計画で力を入れたいこと

目標Ⅰ 誰もが気軽に参加しやすい機会を増やし、つながりづくりをすすめます

- 多世代交流のコツ等、他自治会・団体の取組や工夫を共有し、お互いの良いところを取り入れながら活動をすすめていきます。
- ファミリー世代も参加しやすくなるよう、こどもや子育て世代等から意見やアイデアを聴き、活動の参考にしていきます。
- 様々な人に情報がいきわたるよう、学校・諸団体・関係施設等との連携やデジタル技術の活用など、世代やその人にあった情報発信を工夫します。



三世代で紙ヒコーキを楽しむ
「岡村地区 紙ヒコーキ大会」

目標Ⅱ 地域活動の仲間の輪をひろげよう

- 地域活動やボランティア活動の継続は健康維持にも効果があります。新しく参加した方が継続参加につながるよう活動の雰囲気づくりを工夫します。また、「好き・得意」を生かし、無理なく活動の仲間がひろがるようデジタル技術を活用し、情報発信や運営方法を工夫します。
- 自治会合同で事業を開催したり、各団体が協力して活動をすすめるなど、地域の状況にあわせた連携協力を工夫します。
- 子どもたちも主役となって楽しく活動できる取組を、子どもと一緒に学校・諸団体・関係施設などと連携しながら考えていきます。



みんなと一緒に体も心もリフレッシュ!
「健康体操」

目標Ⅲ 地域の防災意識をたかめ、災害の際の助けあいにつなげます

- 要援護者、障害児者、子育て世代や外国にルーツがある人等、様々な人が交流し顔見知りになれるよう、誰でも楽しく参加しやすい防災イベントの工夫をすすめます。



防災意識を高める
「防災スマイリングフェア」

みんなで目指そう!
誰もが幸せに暮らせるまち汐見台



地区の概況

- 丘陵地形を生かし、昭和30年代後半に計画開発された集合住宅団地で、県公社の分譲・賃貸住宅のほか、企業の寮や社宅が民間マンションに建て替えられています。
- 風致地区が指定されており、身近に斜面林等が残る自然豊かな環境となっています。
- 自治会は小規模で40を超えるため地域活動を個々に実施するのは難しいため、連合自治会を中心に7つの委員会を設けて地域活動を活発に展開しています。

人口等の特徴 人口:7,729人 世帯数:3,317世帯 令和2年からの人口増加率:△10.3% (令和7年3月末現在)

令和2～7年には人口が約10ポイント減少していますが、マンションへの建て替えが進んでいることから、この急激な減少に歯止めがかかり、人口の回復と子育て世代も増えていくと予測されます。年少人口の割合は15.7%と区内1位で、高齢化率などは区平均より低いのが特徴です。

進めているよ! こんな取組

- 見守りネットワーク事業、災害時要援護者対策事業、救命・救急・救出法講習会、健康づくり事業(ウォーキング等)、ふれあい交流会等に取り組んでいます。
- 自治会連合会が中心の、みんなの広場、エコパトロール、夏休みラジオ体操、学校と地域の懇談会等の各種事業や、地区社協によるうたの広場、健康づくり体操等、青少年指導員の夏休み作品教室等に加え、住民主体の汐見台語り処、汐見台文庫等の取組があります。
- 地区全体では、汐見台まつりや桜まつり等の恒例行事が継続されています。



コミュニケーション委員会
「みんなの広場」



子どもはぐみ委員会
「エコパトロール」



自治会連合会
「汐見台まつり」

地域の悩み・こんな町にしたい!

- 単位自治会が多く、地域住民同士の関係や関わりは希薄化が進行しており、居場所やお茶会の参加、さりげない見守り活動の取組、交流・ふれあいの場づくり等を通して、横のつながり、コミュニティづくりをもっとすすめる必要があります。
- 中高生等の若者が地域活動に興味・関心を持ち、イベント等を一緒に企画、実施する等、主体的な活動を応援できる環境を整備することが課題です。
- ケアプラザや、いそごい青い鳥等の事業所、小中学校、病院等地域にある様々な施設や機関との連携、つながりづくりを一層すすめていく必要があります。

第5期計画で力を入れたいこと

目標Ⅰ お互いに認めあい自分らしく暮らせるまち

- こどもから子育て世代、高齢者、障害のある方、外国にルーツのある人などが安心して暮らすことができ、また様々な事業に安心して参加できるよう活動を充実します。
- 中高生等の若者が地域の活動に安心して参加できる仕組みづくりと支援体制を構築します。
- 福祉保健活動をしている人が安心して活動できるよう必要な情報を的確に提供し、支援体制を強化します。
- 障害者施設、小中学校、ケアプラザ、病院等と連携して情報の共有を図り、的確に住民のニーズにあった事業・イベントを構築します。



ふれあい交流会

目標Ⅱ つながりを通して健やかに暮らせるまち

- 地域において末永く健康で暮らせるよう、フレイル予防講座等を充実します。
- 健康づくりウォーキングや夏休みラジオ体操等、身近な健康づくりに取り組めるイベントなどを充実します。
- 地域において、棟ごと等、少人数で実施する茶話会などに助成して、地域のつながりの強化を図ります。
- 地域の人々が気軽に集い、ふれあいを深めることができるよう、会議室使用料を助成して、地域の居場所づくりを充実します。



健康づくりウォーキング



語り処

目標Ⅲ 共にささえあうお互いさまのまち

- 日頃からのつながりや助けあいを進めるため、声かけやあいさつを行い、顔の見える関係づくりを進めます。
- 地域のさりげない見守り活動を進めるとともに、直接訪問する等、一歩踏み込んだ見守り活動を推進します。
- 地域の方が安心して見守り活動に取り組めるような制度の充実を検討します。
- 誰もが安心して、地域で暮らせるよう災害時要援護者対策を充実するとともに、外国にルーツのある方への防災対策等の広報の充実、AEDの設置場所等を明記した防災マップを作成します。



救命・救急・救出法講座



地区の概況

- 磯子区の中央部に位置し、海側の工業地帯、国道16号沿いの平坦な市街地、京急沿線の丘陵住宅地という、特徴の異なる3つのエリアで構成されています。
- 磯子駅・屏風浦駅周辺にはマンションが多く、子育て世帯や若い単身者が多く暮らしています。一方、坂道や狭い道路が多い丘陵の戸建住宅地では、高齢化が進んでいます。
- 地域内には屏風ヶ浦地域ケアプラザ、特別養護老人ホーム、障害者施設等があり、日常的な交流を通じて地域とのつながりが保たれています。

人口等の特徴 人口:30,081人 世帯数:16,015世帯 令和2年からの人口増加率:1.0% (令和7年3月末現在)

人口は区内最大の地区です。年少人口・75歳以上人口・一人暮らし高齢者の割合はほぼ区平均です。人口は今後5年間で0.2ポイント増とほぼ横ばいですが、令和12年以降は減少に転ずると予測されます。

進めているよ! こんな取組

地区全体では

スイッチON推進委員会で「サロン梅の里」や「おでかけ梅の里」を実施しているほか、こどもや障害者とのポッチャ交流会が開催されています。



おでかけ梅の里

自治会町内会においては

それぞれが、夏祭り・ふれあいサロン・配食活動・餅つき大会・ラジオ体操・清掃活動等を実施し、身近な地域活動が活発に開催されています。



森浅間神社例大祭

学校圏域では

地域の安心・安全を高めるため、地域防災拠点で定期的に防災訓練が行われています。また、屏風浦小学校では毎年「ほっと・ナイト・夢まつり」が開催され、地区全体の交流やつながりづくりに大きく貢献しています。



ほっと・ナイト・夢まつり

地域の悩み・こんな町にしたい!

- 世代や新旧の住民、地域の福祉施設が自然に交流し、顔見知りになることが大切です。そのために、お祭りや茶話会、食事会、子育てサロン等、誰もが楽しく参加できる場をつくり、親睦を深めていきます。
- 日頃のあいさつや声かけで自然な見守りを行い、安心できる関係づくりを進めます。さらに、バンダナによる安否確認や在宅避難の備え、防犯パトロールを継続し、身近なところから助けあえる仕組みを地域みんなでつくっていきます。
- 環境美化やウォーキング、体操等の健康づくりに、誰もが気軽に参加しながら心身の健康をめざします。そのために、自治会町内会やシニアクラブ、子ども会、青少年指導員、スポーツ推進委員等が協力しあえる体制を整え、地域全体で元気なまちづくりを進めていきます。

第5期計画で力を入れたいこと

目標Ⅰ 住民同士が顔見知りになる取組をすすめます

普段からまちやマンション内で会ったときにあいさつを交わし、こどもから大人まで気軽に参加できる行事やイベントを通して顔見知りの関係を築いていきます。

具体的な取組

- お祭り ●餅つき ●クリスマス会
- 敬老会 ●茶話会 ●食事会
- 配食活動 ●高齢者サロン ●子育てサロン
- 入学卒業を祝う会 ●サロン梅の里



サロン梅の里

目標Ⅱ いざという時に助けあえる仕組みづくりをします

住民同士顔の見える関係づくりをもとに、戸建てやマンションなどの違いに応じた避難行動や安否確認の方法を考える機会を増やします。また、防災訓練においても小・中学校と地域で連携して行います。

具体的な取組

- 防災訓練 ●防犯パトロール
- バンダナの安否確認訓練



地域防災拠点訓練

目標Ⅲ みんなが地域づくりに関わるきっかけづくりに努めます

こども・子育て世代から高齢世代、障害のあるなしを超えて、誰もが楽しんでもできる地域づくりを自分事として担います。そのために、自治会町内会や小・中学校、様々な活動団体が連携協力して取り組みます。

具体的な取組

- 菜園作り ●花壇の手入れ
- 清掃活動などの環境美化活動
- いきいき体操 ●ラジオ体操 ●健康マージャン
- 歩く会 ●寄席 ●バス旅行
- ポッチャ・モルック等の心と体の健康づくり



ポッチャ交流会

支えあい、明るい杉田でみな元気
～あいさつで互いを気づかうまち～



地区の概況

- 海側の工業地、低地の古い市街地、丘の上に形成された新しい住宅地に大きく区分されます。
- 杉田梅が江戸時代から有名で、今でも地区内には妙法寺、梅林小学校、大谷梅園など梅の名所があります。
- 2つの鉄道駅（JR根岸線・新杉田駅、京急線・杉田駅）を中心に、昔ながらの商店街や商業施設が集積するほか、杉田地区センター・杉田劇場・スポーツセンター・南部地域療育センターなど各種施設が多く立地しています。

人口等の特徴 人口:23,577人 世帯数:11,899世帯 令和2年からの人口増加率:△1.2% (令和7年3月末現在)

人口は区内3番目に多い地区です。14歳以下の年少人口の割合は区平均に対し0.7ポイント低くなっています。75歳以上人口の割合は16.5%で区平均に近く、一人暮らし高齢者は区平均に対し1.8ポイント低い状況です。

進めているよ! こんな取組



防犯・防災パトロールや小学校見守り隊等、地域の安全・安心につながる自治会の取組が幅広く実施されています。



健民祭、夏祭り、梅まつり等、地域行事が盛んで、世代を問わず多くの方が参加されています。



元気づくりステーションが5箇所もあり、健康づくりの活動が盛んです。

地域の悩み・こんな町にしたい!

- 杉田地区は、杉田梅で知られた地域です。保存活動に関わる人を増やし、文化・伝統の継承や自然環境をみんなで大切にしていきたい。
- 起伏に富み、狭い道路が多いので、災害時に備え、高齢者・子育て世代・障害者等の助けあいができるような町にしていきたい。
- 高齢者の活動がとても盛んなので、より充実させるための工夫をしていきたい。
- こどもの数は減少傾向にありますが、地域全体でこどもとその家族を支える仕組みをさらに広げ、より安心できる町づくりを進めていきたい。
- 地域活動の担い手を増やすために、町内会の枠を超えたイベントや新しい仕組みづくりに取り組んでいきたい。

第5期計画で力を入れたいこと

目標Ⅰ お互いを認めあい自分らしく暮らせるきっかけづくりをしていきます

あいさつ

ゴミ拾いや草刈り、あいさつ運動等の地域の取組により、新たな出会いやあいさつの機会を生みだします。

交流

年代・性別・障害の有無の違いを超えて参加できる、防犯パトロール、防災訓練、ラジオ体操といった既存のイベントへの参加者を増やすとともに地域での交流を図ります。

話しあい

高齢者・こども・障害者・外国籍の人といった対象に合わせて関心のあるテーマを設けてコミュニケーションを図る機会をつくります。



あいさつマスタースタンプラリー

目標Ⅱ つながりを通して健やかに暮らせる仕組みづくりをしていきます

気軽に参加

夏祭りや梅まつり等、世代や障害の有無、住んでいる町会に関係なく参加できる活動や行事を増やします。

やりがい

人とのつながりを感じながら役割をもって参加できる活動や行事をつくります。

健康づくり

地域の健康づくりの意識を高めるとともに、楽しみながら健康づくりと交流を図れる健民祭を盛り上げていきます。

情報

地域の情報を多くの人に知ってもらえるようSNSの活用、多言語への対応等、対象となる人に合わせた情報発信の工夫を行います。



杉田東部町内会もちつき大会

目標Ⅲ 共に支えあうお互いさまのまちとなるよう取組をすすめます

見守り

日ごろのあいさつ、防犯パトロールなどを通じて顔見知りを増やし地域全体の見守りにつなげていきます。

安心・安全

地域の垣根をこえてお互いのまちを知り、災害時安否確認バンダナを用いた訓練や救命講習等を実施し、誰もが安心・安全に暮らせる地域をめざします。

仕組みづくり

多様な人たちが気軽に地域と関われるようなきっかけを増やし、将来的に次世代の担い手として楽しく活動ができるような仕組みをつくっていきます。

子育て

地域全体で子育て世帯を見守り支えあうことで、こどもたちが健やかに成長し、保護者も安心して子育てできる環境づくりをめざします。



梅林小学校「地域防災拠点訓練」



自然とともにつながりのあるまち上笹下
～魅力を発見していこう! 知って楽しもう!～



地区の概況

磯子区の南端に位置し、金沢区・港南区・栄区が隣接し、県道笹下釜利谷道路が通る南北に長い地区です。また、6神社を中心に六ヶ町として発展した歴史のあるエリア、円海山や大岡川の清流等に恵まれ、農業専用地区もある自然環境エリア、戸建住宅やマンションの多い住宅街エリア等、様々な要素が集まっている地域です。

人口等の特徴 人口:16,920人 世帯数:8,201世帯 令和2年からの人口増加率:△1.9%(令和7年3月末現在)

令和2～7年の人口減少が区の平均を0.4ポイント上回り、今後も人口減少が続くと予測されます。また、高齢人口、特に75歳以上人口の割合が区平均に比べて2.4ポイント上回り、区内2位となっています。

進めているよ! こんな取組

- 地区全体で「土とのふれあい」や「スポーツフェスタ(健民祭)」「わいわい食堂(子ども食堂)」等に取り組み、幅広い世代を対象とするつながりづくりや健康づくりの機会になっています。
- 身近な自治会町内会等でも、夏祭り・秋のフェスタ・おひな様の会等の季節の行事、また、高齢者向けの昼食会や見守り訪問等を実施しています。

町内対抗競技は大盛り上がり!



健民祭(玉入れ)

人形を並べるのは
みんな住民の有志。
できる時にできることを
無理のない範囲で参加できるから
参加する人達が増えて
顔見知りの関係も
広がったよ。



おひな様の会

地域の悩み・こんな町にしたい!

- 地域活動の参加者が固定化し、子どもたちやファミリー世代の参加が減少しています。子育て世帯を取り巻く環境変化や、若い世代のライフスタイルの変化に寄り添いながら、希薄になりつつある地域と子どもたちとのつながりを豊かにする必要があると感じています。
- 地域活動をする人が高齢化しているので、今後、若い世代を含め様々な住民とどうつながり、ともに活動できるかを模索し、元気ある地域にしていきたいです。

第5期計画で力を入れたいこと

目標Ⅰ 多様な住民の参画により、地域性豊かで魅力的な地域づくりを継続します

- 多世代の担い手やコーディネーター役の確保、実施内容の工夫等、創意工夫を積み重ねながら、地域の特性を生かした交流事業を継続して実施します。



土とのふれあい(収穫)

収穫後に芋ご飯と豚汁が
ふるまわれることも…



わいわい食堂(子ども食堂)

美味しいカレーが大好評!
毎日にぎやかな声が聞こえます

- 地域活動やボランティア活動は心身の健康維持に効果があるだけでなく、社会とのつながり・広がりも期待できます。それぞれが持つ「得意」や「好き」を生かして、気軽に地域活動へ参加、活動できる機会を設けられるよう、参加方法や情報発信についても工夫します。

目標Ⅱ 子ども・青少年などが積極的に関われ、元気ある地域づくりをすすめます

- 未来を担う子どもたちが多様な体験を通じて成長できるよう、地域全体で支える機会を増やしていきます。その際、企画・運営に携わる場を設けるなど、楽しく積極的に活動できる工夫を検討します。
- 子どもたちや子育て世代の声を聴き、意見やアイデアを積極的に取り入れることに努め、ともに考え、解決をはかります。子どもたちがいきいきと楽しく参加し、取り組む活動を通して、地域全体が元気になることをめざします。

目標Ⅲ 住民同士の交流をさらにすすめ、災害等に強いまちづくりを強化します

- 安心して暮らせる地域であるために、隣近所をはじめ身近な住民と顔の見える関係づくりを心がけ、人と人のつながりを育てていきます。その際、各種団体や学校、企業等地域にある様々な施設や機関と協力し、無理なく効果的な事業実施を図ります。
- 防災意識を高めるために、住民一人ひとりの自助の取組の大切さについて啓発に努めます。また、災害に備えて日頃からさりげない見守りができるよう、安否確認や避難訓練・在宅避難等について関係機関と協力し、周知を図ります。



災害に備えて(起震車体験)



地区の概況

- 区の南西に位置し、JR洋光台駅を中心に戸建住宅地と集合住宅地から成り立っています。
- 昭和45年に開発されてから55年が経過し、世代交代の時期を迎えています。
- 公園が多く緑化がすすんでおり、清掃活動等によりきれいに維持・管理されているため、町全体が落ち着いています。

人口等の特徴

人口:23,356人 世帯数:12,416世帯 令和2年からの人口増加率:△2.2%(令和7年3月末現在)

人口は令和8年度から5年間で約3%減少すると予測されます。年少人口の割合は9.5%と区平均より1.3ポイント低く、高齢人口の割合は31.7%(内、75歳以上人口20.5%)で、区内で最も高くなっています。

進めているよ! こんな取組

洋光台 フィットネス



いつまでも健康で!!を願い作ったオリジナル体操。地域の様々な行事で皆様と楽しんでいます。

梅の里まつり 抹茶サロン



梅の花と香りを楽しみながら、呈茶席で抹茶と和菓子を頂く、非日常的な雰囲気交流の場です。

災害時 要援護者の 訪問



災害時要援護者名簿に基づき、訪問員が見守りを行い、顔の見える関係性を築いています。

ちびっこ広場 (ケアプラザ)



自治会館をお借りした、出入り自由の子育て広場です。子育て支援者の情報交換の場にもなっています。

地域の悩み・こんな町にしたい!

- 地域活動の参加者が固定化し、高齢化に伴って参加者数が減少しています。
- 子ども向けの取組の情報が子育て世代に十分に行き届いていないという声があがっています。
- 地域活動をする人が高齢化しており、若い世代をいかに巻き込むかが課題となっています。

第5期計画で力を入れたいこと

支えあいの推進

～地域全体で支えあい、安心して住めるまちに～

- あいさつを通して隣近所の人とお互いに気かけあおう
- 日頃の習慣の「ついで」に地域全体で防犯・見守りをしよう
- 防災訓練への参加や災害時要援護者の見守り訪問を通して、災害時に助けあえる体制をつくろう



総合防災訓練

健康づくりの推進

～高齢者が元気で長生きできるまちに～

- 体操、モルック、グラウンドゴルフ、ボッチャ、合唱等の身近な活動で楽しくつながら、心も体も健康に過ごそう



ボッチャ

活動を広げる

～みんなが気軽に活動に参加でき、交流が広まるまちに～

- 誰でも気軽に活動に参加できるように、どんな工夫ができるかを様々な人と話しあおう
- 自治会町内会の掲示板・回覧版・広報誌や、SNSを活用して地域情報を届けよう
- 他の自治会町内会や関係団体と連携してイベントを開催し、交流の輪を広げよう

～若い世代も活躍できるまちに～

- 子どもから大人まで、一人ひとりの得意を生かし、「やりたいこと」から始まる主体的な活動を展開しよう
- 役割分担や活動時間を工夫して地域活動に参加するきっかけを作ろう



HAPPY★ハロウィン in 洋光台

～子どもたちが笑顔で育つまちに～

- 子育て世代が中心となって、子どもたちの興味・関心を引く取組を増やし、より一層洋光台に愛着を感じてもらえるようにしよう



駅前公園プレイパーク

3章 スイッチON磯子の進め方

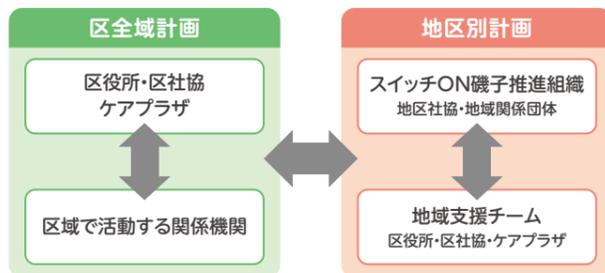
(1) 計画の推進体制

区全域計画は、区役所・区社協・ケアプラザが、区全域を対象とした関係機関等、様々な団体と連携しながら推進していきます。

地区別計画は、地区連合町内会単位で、スイッチON推進組織のメンバーが中心となり地域関係団体等と連携しながら推進していきます。

各地区を区役所・区社協・ケアプラザで構成される地域支援チームが支援していきます。

【スイッチON磯子 推進体制 全体像】



区全域計画の推進体制

●推進主体

磯子区に関わる一人ひとり(私たち一人ひとり、地域や仲間)ができることを取り組むのはもとより、区役所・区社協・ケアプラザと、区域で活動する関係機関と連携して取組を推進します。

区役所

区全域計画の策定・推進の中心的な役割を担います。推進にあたっては、個別支援を通して把握した地域の課題や潜在的な課題も意識しながら取組を進めます。また、部や課を越えた連携による分野横断的な「地域と向き合う体制^{*}」を整備し、地区別計画の策定・推進等の地域支援に取り組みます。

*地域のワンストップ窓口として、区役所職員が各地区を担当する体制(地域協働推進員)

区社会福祉協議会(略称:区社協)

社会福祉法に基づいた民間法人で、地域福祉に関わる様々な施設や団体等により構成されている「協議会」です。「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなでつくりだす」ことを活動理念としており、「地域活動計画」を策定しています。地域福祉保健計画は、区社協の「地域福祉活動計画」としての性格を持っています。

区社協は、地域の福祉活動を応援するためのネットワークづくりや研修、活動への助成、ボランティアのコーディネート等のほか、個別の相談やサービス(権利擁護事業、移動情報センター、生活福祉資金等貸付)を行っています。

民間としての「自主性」と多くの人に支えられている「公共性」を併せ持っており、活動の財源には、会員からの会費や地域住民からの寄付である共同募金配分金などが生かされており、また多くの活動が地域のボランティアの皆さんに支えられていることが特徴です。民間団体である強みを生かし、多様なネットワークをつくり、地域づくりを進めていきます。

地域ケアプラザ(略称:ケアプラザ)

「地域の身近な福祉・保健の拠点」として、地域住民の福祉・保健活動やネットワークづくりや、住民主体による支えあいのある地域づくりを支援します。地域の中での孤立を防ぎ、支援が必要な人を把握し、それぞれの専門性を生かして総合的に支援していくとともに、地域の課題を明らかにして、地域住民とともに解決に取り組みます。

地域活動交流コーディネーターは、住民主体の地域づくりを関係機関と連携して支援します。生活支援コーディネーターは、高齢者が地域で暮らし続けるための地域づくりを支援します。主任ケアマネージャー・保健師等・社会福祉士(地域包括支援センター)は、地域住民の保健医療の向上と福祉増進をめざし、包括的かつ継続的に心身の保持及び生活の安定のために必要な支援をします。

区域で活動する関係機関

各施設の二次元コードは令和8年3月時点のもの

① 磯子区地域子育て支援拠点 いそピヨ

住所 森 1-7-10 トワイシア横濱磯子2階 TEL 750-1322

就学前の子どもとその保護者が遊び、交流するスペースの提供、子育て相談、子育て情報の提供等を行う子育て支援の拠点で、利用登録のうえ、無料でご利用いただける施設です。妊娠中の方とそのパートナーも利用できます。また、地域で子育て支援に関わる方のサポートなども行います。



② 磯子区基幹相談支援センター

住所 杉田5-32-8 1階 TEL 778-6635

障害福祉についての総合相談センターです。障害のある方が住み慣れた地域でその人らしい暮らしができるよう、様々なサポートをしています。身体・知的・精神の障害、高次脳機能障害、発達障害、難病の人、また障害者手帳を持っていない人も相談できます。

いそご地域活動ホームいぶき

住所 杉田5-32-15 TEL 778-1228

障害のある方のデイサービスやショートステイの他、子どもたちが遊べるおもちゃ文庫、誰もが使える地域交流コーナー、喫茶コーナーがあります。その他、より暮らしやすい地域づくりを目的として、秋には大きなイベント「いぶきまつり」を開催しています。



③ 磯子区生活支援センター

住所 森4-1-17 3階 TEL 750-5300

精神障害のある方々の地域生活を支援するとともに、ご家族への支援、地域への働きかけをしています。



④ いそご多文化共生ラウンジ

住所 磯子3-4-23 浜田ビル3階 TEL 367-8492

外国人市民の方が抱く暮らしに関わる質問や相談、自治会町内会や学校等からの多文化共生に関する相談等を受けています。また、外国人と日本人の交流イベントや異文化紹介イベント、外国につながる子どもたちへのサポート等、多文化共生につながる取組を行っています。



⑤ いそご区民活動支援センター

住所 磯子3-5-1 7階 TEL 754-2390

市民活動やボランティア活動、生涯学習活動を行っている方、これから始めようという方を応援します。何かをやりたい、始めたいという方の相談、情報の提供と発信、スキルアップ講座などを通じて、市民活動・地域活動を支援しています。



⑥ 横浜市社会教育コーナー

住所 磯子3-6-1-1 TEL 761-4321

生涯学習・社会教育の推進のため、自主事業の企画・実施や情報提供、相談対応、場の提供を行っています。生涯学習・社会教育関係職員の人材育成のため、研修の企画・実施、相談対応といった業務を行っています。



⑦ 磯子区在宅医療連携拠点 相談室かけはし

住所 磯子1-3-13 磯子区医師会訪問看護ステーション内 TEL 330-0855

区民の皆様が住み慣れた地域で、安心して自分らしい療養生活が送れるよう、医師会と区役所で連携しながら、在宅医療や介護に関する相談・支援業務や医療連携、啓発事業等を実施しています。



⑧ 横浜型医療的ケア児・者等コーディネーター

TEL 330-9966

医療・福祉・教育等の専門的な研修を修了した訪問看護師が、医療的ケア児・者等とそのご家族、地域の支援者や関係機関とのつなぎ役となり、在宅生活に必要なサービス等を適切に受けることで、安心して生活ができるように支援しています。



地区別計画の推進体制

●推進主体

スイッチON推進組織中心に、地区の自治会町内会長や地区社協、民生委員・児童委員等の代表者、地域で活動する団体の役員等が、地区別計画推進組織の運営を担っています。

自治会町内会(162自治会) [令和8年1月末時点]

一定の区域に住む人々が、地域の問題を解決し、住民の皆さんの親睦を図る等、結びつきを深めながら、豊かで住みやすいまちづくりをめざして自主的に運営している団体です。

地区連合町内会(9地区)

地区連合町内会は、おおむね中学校通学区程度を単位とした自治会町内会により構成した自治会町内会の集まりで、自治会町内会の垣根を越えた各種事業を展開しています。

地区社協(9地区)

『私たちのまちを、お互いの力を生かしてより住み良くしていこう!』と活動している地域福祉活動の主力です。自治会町内会、民生委員・児童委員、当事者団体が会員となり、自分たちの地域の福祉のまちづくりを目的に協力しあっています。

地域で活動する各種団体等

各施設の二次元コードは令和8年3月時点のもの

民生委員児童委員協議会

厚生労働大臣および市長から委嘱を受けた特別職の地方公務員である民生委員・児童委員で、介護や子育ての悩み等、福祉に関する心配ごとや困りごとを一緒に考え、必要な福祉サービスが受けられるよう関係機関へつなげています。その他、地域で開催している交流会やサロン等をご紹介します等の情報提供も行っています。



主任児童委員連絡会

民生委員・児童委員から指名された委員で、子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ごと等の相談・支援等を行っています。民生委員と協力、連携しながら子育てサロンの運営、また児童虐待防止等の活動にも取り組んでいます。また学校や関係施設と情報を共有する地域のつなぎ役でもあります。



保健活動推進員会

市長の委嘱を受け、自治会町内会等の地域組織と連携し、住民のみなさんの健康づくりの支援活動を行っています。区福祉保健センターや各種団体と協力しながら、ウォーキングイベントや体力測定会の開催、受動喫煙防止、がん検診および特定健診等に関する普及啓発、子育て中の人や高齢者等の健康づくりに関する活動をしています。



食生活等改善推進員会(ヘルスメイト)

「私達の健康は私達の手で」を合い言葉に、「食」を通じたボランティア活動を行っています。子育て支援拠点やケアプラザと連携した食育活動や、子育てグループを対象に、みんな楽しく簡単な手作りおやつの実習をしたり、男性を対象とした調理実習等を行っています。



青少年指導員協議会

市長と県知事から委嘱を受け、次世代を担う青少年が地域で心豊かに成長できるよう活動しています。磯子区の青少年指導員は、区内の自治会町内会(地区)、小中学校(学域)から推薦されています。「紙ヒコーキ大会」や「いそごこどもまつり」、「磯子七福神めぐり」といった、子どもたちの交流・体験活動の場づくりや、夜間パトロールの実施を通じて、安心して暮らすことができる街づくりを行っています。



スポーツ推進委員連絡協議会

市長からの委嘱を受け、磯子区の輪投げ大会や駅伝大会、自治会町内会での健民祭・歩け歩け大会・スポーツ大会等、誰でも気軽に参加できるスポーツ事業の運営及び協力を行っています。また、横浜マラソン・世界トライアスロンシリーズ横浜大会等、横浜市のスポーツ事業への協力も行っています。



磯子区シニアクラブ連合会

健康づくりやボランティアを通じて地域を明るく盛り上げ、仲間との楽しい交流を広げる場として活動しています。



子ども会連絡協議会

地域の子どもたちが集まって地域の行事や文化を体験し、子ども同士の交流を深めることで健全育成を図る活動を行っています。書道展や子どもバザー、中学生から社会人で組織されるジュニアリーダースクラブ主催のキャンプやクリスマス会等を開催しています。



親と子のつどいの広場

地域の子育て中の親子(主に0~3歳)、妊娠期の人が遊んだり、交流したりすることができる場です。育児相談や子育て情報の提供もしています。



ボランティア・市民活動団体

各地区で様々なボランティア団体が活動しており、配食活動での要援護者の見守り、施設入所者と地域住民の交流の場づくりへの協力等の活動を行っています。また、地区の諸行事には積極的に参加し、スイッチON磯子推進の一翼を担っています。地域の活動に協力できる人はぜひご参加ください。

磯子区NPO連絡会

磯子区内の様々な分野のNPOが連携・協力して地域課題の解決への市民パワーを向上させ、暮らしやすい地域をみんなでめざすために、定期的な連絡会やいそご地域活動フォーラムへの参画、研修会を開催しています。



磯子保護司会

主に磯子区在住の保護司で組織される団体です。犯罪や非行をした人の立ち直りを助ける活動として保護観察官と協働して保護観察や生活環境の調整にあたる他、地域の方々に立ち直りについての理解と協力を求め、安全安心な地域づくりを行うための活動として「社会を明るくする運動」をはじめとする犯罪予防活動を行っています。



更生保護女性会

やさしい母・姉の立場から、罪を犯した人や非行少年の更生のために保護司の仕事に協力し、地域において日常生活の中の犯罪予防に務めている団体です。

消防団

普段は仕事をしながら、火災発生時の消火活動、地震や風水害等の大規模災害発生時における救助活動・警戒監視・避難誘導などを行う市町村の消防機関のひとつです。「横浜市消防団の設置等に関する条例」に基づき組織され、18行政区に18消防団が設置されています。



防災ボランティア

様々なボランティア団体が災害に備え、地域防災拠点の開設・運営訓練や自治会町内会の防災訓練等あらゆる場で、防災・減災の啓発活動を行っています。発災時には地域防災拠点での資機材の取り扱いや救命活動、アマチュア無線による非常通信、災害ボランティアの受け入れ支援等、幅広い役割を担っています。



磯子区事業会

区内の様々な業種の地元企業が加盟し、地域社会の発展の為、地域振興と企業の発展、事業者の連携をはかることを事業目的として運営されています。磯子区と「地域活性化に関する包括連携協定」を締結し、それぞれの持つ資源やノウハウを生かして、地域の活性化に関わる取組を進めています。



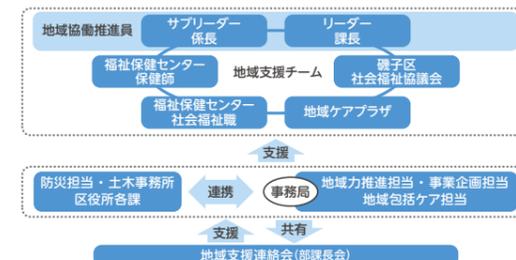
磯子区商店街連合会

身近なお買い物の場であるとともに、季節に合わせたイベントや多世代で楽しめる催し等、地域に密着した様々な取組を実施しています。



●支援・協働体制

地区別計画は、推進主体のみなさんが区役所・区社協・ケアプラザと協働して進める取組です。区役所・区社協・ケアプラザで構成する地域支援チームを連合町内会単位に設置し、地区別計画推進に向けて横断的に支援します。



(2) 計画の振り返り

区全域計画

●区役所・区社協・区内各ケアプラザの取組の評価

それぞれ年度ごとに「第2章(P15～)」に掲載している事業を中心に振り返りを行い、量的及び質的な自己評価を行います。

◆量的評価は、「活動指標」を用いて振り返ります。

活動指標一覧(再掲)

基本目標	活動指標	現状値(R6)	めざす方向性
I	多文化共生ラウンジ利用者数	3,857人	↗
	Sundayいそピヨで開催している講座などの参加者数	—(※)	↗
	福祉教育 実施数	16講座	→
	認知症サポーター養成講座受講者数(累計)	23,312人	↗
	同じ悩みを持った人が集まる場の開催数	159回	→
II	フレイル予防サポーター登録者数(累計)	38人	↗
	ボランティア登録数	260人 48グループ	→
	世代や障害の有無に関わらずできる健康づくりの取組数	72回	→
	出張健康づくり応援隊 参加人数	350人	↗
	地域主催の講座等での情報提供の回数	184回	→
III	民生委員・児童委員による高齢者等の訪問件数	34,841人	→
	ボランティア派遣人数	237人	↗
	「災害に備えて3日以上防災備蓄を行っている」回答した人の割合	—(※)	↗
	社会福祉法人、福祉施設等の参加団体数	—(※)	→
	タクシー会社等との連携による移動支援件数	2地区	→
	寄付団体数	85件	↗
	ボランティアの交流の回数	52回	→

◆活動指標の評価になじまないものについては、質的評価を行います。 ※令和7年度の実績を現状値とします。

●策定・推進検討会への報告

区役所・区社協・ケアプラザによる自己評価は、毎年度策定・推進検討会にて報告し、公表します。検討会での意見を踏まえ、計画推進を図ります。

地区別計画

地区別計画は、地域の皆さんが推進し、成果を残すことだけでなく、たくさんの方が参加して取組を進めていくことが大切です。また、取組を振り返ることは活動の内容や成果を認識でき、モチベーションを高めるとともに、振り返りの中での気づきを次に生かすことができます。

以上のことから、第5期計画では、新たに次の4つの視点をもって計画を推進し、振り返りを行っていきます。

視点 ① たくさんの方に取組を知ってもらえたか

まずは、自分が住む地域にどんな取組があるのか知ってもらうことが、参加してもらうための入口であるという観点から、「どのようにすれば多くの人に知ってもらえるのか」「情報が届くのか」といった視点で振り返ります。

視点 ② たくさんの方が参加したか

「これまであまり地域活動に出てこなかった人も参加したか」「地域みんなで積極的に取り組めたか」といった視点で振り返ります。

視点 ③ 様々な人と協力できたか、一緒にできたか

「いろいろな人や団体と連携して、一緒に取り組めたか」という視点で振り返ります。

視点 ④ 地域にどのようなメリットがあったか

地域福祉保健の活動・取組の成果は数値で表しにくく、客観的に把握することが難しい面もあります。そのため、「地域にとってどのような良いことが起こったか」という視点で、具体的に振り返ります。

全体振り返り(区全域計画+地区別計画)

第5期計画の区全域計画・地区別計画を総合した進捗状況を把握するため、今後実施する「磯子区民意識調査」等で、次の評価指標の現状値が、目標値に対してどのように変化したかを確認します。

令和8年度に区民意識調査(予定)を実施し、その後も同じ指標で調査することにより、経年変化がわかるようになります。

指標	目標	把握方法	目標値
相互理解が進んでいる割合	I	区民意識調査など	R8年度調査より上昇
地域に愛着を持っている人の割合	I	区民意識調査など	R5年度調査より上昇
地域活動に参加している人の割合	II	区民意識調査など	R5年度調査より上昇
主観的な健康状態	II	区民意識調査など	R5年度調査より上昇
困ったときに地域で相談したり助けあったりする人の割合	III	区民意識調査など	R5年度調査より上昇
地域とNPO法人、企業などが連携した取組の実施数	III	区社協把握数	R8年度より上昇



区民一人ひとりと地域の皆さん、区役所・区社協・ケアプラザなどの公的機関がそれぞれできることを取り組んだ結果、基本目標にどれだけ近づいたか調査して、共有するよ!

4章 資料編

(1) 策定の経過

		区計画	地区別計画
令和6年度	6月～10月	グループインタビュー (高齢・子ども・健康づくり・障害者等の分野別団体:12団体、9地区計179名参加) ボランティアグループ・当事者団体アンケート:29団体 広報よこはま磯子区版での区民アンケート:179名	
	7月	策定・推進検討会(第1回) 【策定の進め方の共有】	
	10月	策定・推進検討会(第2回) 【第4期計画振り返り結果の共有・第5期計画 骨子(たたき台)の検討】	
	2月	策定・推進検討会(第3回) 【第5期計画 素案の方向性の検討】	
	2月～3月		キックオフ会議
	令和7年度	5月	地区別計画策定に向けた座談会
6月～			ワークショップ
7月		策定・推進検討会(第4回) 【第5期計画 素案(たたき台)の検討】	
10月		策定・推進検討会(第5回) 【第5期計画 素案の検討】	
11月		区民意見募集	
12月			地区別計画確定
2月		策定・推進検討会(第6回) 【区民意見募集を踏まえた第5期計画(案)の検討】	
3月		第5期磯子区地域福祉保健計画「スイッチON磯子」確定	

●区民意見募集

実施期間:令和7年11月1～30日(ご意見総数:44件)
いただいたご意見は、計画に反映したほか、関係部署・機関・団体と共有しました。



ワークショップの様子

学識経験者	愛知東邦大学	教授	西尾 敦史
各種団体	磯子区医師会	会長	箕原 豊(R6) 小野 慎也(R7)
	磯子区歯科医師会	理事 副会長	坂本 瑤子(R7) 坂田 信明(R7)
	磯子区薬剤師会	副会長	熊野 孝志(R7)
	磯子区社会福祉協議会当事者団体部会	部会長	上杉 惇
	磯子区スポーツ推進委員連絡協議会	副会長	吉田 千春
	磯子区青少年指導員協議会	会長	中山 真一
	磯子区障害児者地域訓練会 さつき会	副会長	森 佳代子
	NPO法人 夢・コミュニティ・ネットワーク	理事長	坂本 寿子
	磯子区保健活動推進委員会	副会長	石川 悦代(R6) 栗本 由佳子(R7)
	磯子区民生委員児童委員協議会	会長	屋代 昭治
	磯子区シニアクラブ連合会	副会長	服部 元彦
磯子区民生委員児童委員協議会(主任児童委員連絡会)	代表	今井 裕子	
地区代表	根岸地区連合町内会	会長	石川 康雄
	ハッピー根岸推進委員会	代表	須川 さよ子
	滝頭地区連合町内会	会長	柏木 達義
	スイッチON磯子滝頭地区推進委員会	事務局長	古知屋 多恵子
	岡村地区連合町内会	会長	宮澤 章
	岡村地区スイッチON磯子推進委員会	事務局長	釣井 清(R6) 間宮 繁喜(R7)
	磯子地区福祉保健計画推進委員会	会長 副会長	山口 茂美 内藤 満
	汐見台自治会連合会	会長	岡 道子
	スイッチON磯子汐見台地区推進委員会	副会長	押山 佐和子
	屏風ヶ浦地区連合町内会	副会長	笠原 静江
	スイッチON磯子屏風ヶ浦地区推進委員会	副会長	土屋 東
	磯子区連合町内会長会 杉田地区連合町内会	会長	須田 幸雄
	スイッチON磯子杉田地区推進委員会	会長	久保 雅己
	上笹下連合自治町内会	会長	金子 光則
	スイッチON磯子上笹下地区推進協議会	副会長	大蔵 一真
洋光台連合自治町内会	会長	森野 勇	
スイッチON洋光台推進協議会	事務局長	武内 喜久夫	

関係団体へのインタビューとアンケートを元に、策定・推進検討会で第5期計画の基本目標を決定しました。

基本目標 I

「お互いを認めあい自分らしく暮らせるまち」

振り返りインタビュー・アンケートの主な内容

- 地域イベントに参加してもらうことで、お互いを知ることができ、つながることができた。
- お互いを知りあう環境づくりをしたい。 ●地域とのつながりが弱いと感じる。
- 子育て世代が地域とどうつながっていいかわからない人が多い。
- 外国人とのつながりづくりについて今後も検討していきたい。

策定・推進検討会での意見

- 小さなつながりでもよい。気にかけて、知り、認めあうことが大切。 ●知ることは相手の状況などを理解することが必要。

第5期計画の方向性

一人ひとりがお互いの状況を理解し、認めあうことで、自分らしく暮らせる地域になることをめざします。

基本目標 II

「つながりを通して健やかに暮らせるまち」

振り返りインタビュー・アンケートの主な内容

- 地域の情報が入手しづらく、あとで「こんなことがあったのか」と知ることがある。
- 必要な人に必要な情報などが手に入るネットワークができているとよい。
- 地域活動は、一緒に外出する仲間づくりや社会貢献、自分と社会のつながりにもなり、心も体も元気になる。
- 得意なことを生かす等、楽しい場づくりを工夫した。 ●参加しやすい工夫をして、地域活動の参加者を増やしたい。

策定・推進検討会での意見

- 「健康」の大切さが改めて伝わるとよい。 ●地域活動の参加者を増やすため、どのようにアプローチするかが課題。

第5期計画の方向性

地域とつながることで、社会参加や生きがいとなり、いつまでも心身ともに健康に暮らせることをめざします。

基本目標 III

「共に支えあうお互いさまのまち」

振り返りインタビュー・アンケートの主な内容

- 顔見知りになるだけでなく、いざというときに見守りあう関係に発展した。
- 災害時には日常的な地域住民とのつながりが必要。
- コロナ禍で中断した活動を再開したが、担い手の高齢化による人手不足や、人が集まりにくくなっている。
- 活動を長く続けていくことは大切だが、次の担い手のことも考えていく必要がある。
- 高校生や大学生等、若い世代に活動をつないでほしい。

策定・推進検討会での意見

- 挨拶できる関係から始まり、地域の活動に参加し関係性を深めて担い手につながるのではないかと。
- 「お互いさま」という言葉は、第4期計画から引き続き残してほしい。

第5期計画の方向性

お互いを認めあい、つながりあう中で、支えあう関係性や地域活動をする人が増えていくことをめざします。

(2)用語解説

50音	用語	内容
あ	ICT (アイシーティー)	「ICT」とは「Information and Communication Technology」の略称で、通信技術を活用したコミュニケーションを指す。情報処理だけではなく、インターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称。
い	インクルーシブ スポーツ	障害の有無や年齢、性別、文化的背景などに関わらず、誰もが平等に参加できるスポーツのこと。例えば、ボッチャ等。
こ	こども食堂	地域住民やNPO、企業等が、こどもが一人でも来られるように、無料または低料金でこどもたちに食事を提供する場。
さ	災害時要援護者	地震等の災害発生時に、一人で必要な情報を把握し、状況を判断することが困難な人や、安全な場所に自力で避難することが困難な人のこと。横浜市では、特に自力避難が困難と想定される対象者(要介護3以上の人、一人暮らしの高齢者等)について名簿を作成している。この名簿は、区と協定締結した自主防災組織(自治会町内会)に提供し、普段から顔の見える関係づくり等に活用されている。
さ	サロン	高齢者や障害者、子育て世代の人等、様々な住民が、身近な地域でのお茶会や趣味活動、レクリエーション活動を通じて、住民同士の交流やつながりづくりを深める活動の場のこと。
せ	善意銀行	善意に基づく金銭・物品をお預かりし、必要とされる方々に配分する仕組みで、銀行の機能になぞらえて「善意銀行」と呼んでいる。社会福祉協議会が実施。
ふ	福祉教育	こどもから大人まで全ての人を対象とし、学校や地域でのボランティア体験・交流・出前授業等を通じて、高齢・障害等の当事者理解や身近な地域の福祉課題の理解等を進める取組。
ふ	フレイル	年齢を重ねたり、病気になったりすることで、体力や気力、認知機能等、心と体の機能が低下し、将来介護が必要になる危険性が高まっている状態。
に	認知症サポーター	「認知症サポーター養成講座」を受講し、認知症について正しく理解することで、認知症の人や家族を温かく見守り、自分のできる範囲で活動する「応援者」(自治体または企業・職域団体が実施する養成研修を受講したキャラバン・メイト等が、「認知症サポーター養成講座」を企画・開催し、講師を務める)。

(3)区全域計画の取組に係る問合せ一覧・ケアプラザの紹介

区全域計画の取組に係る問合せ(令和8年3月時点)

名称		業務内容	連絡先
区 役 所	福祉保健課	運営企画係	民生委員・児童委員の事務局 750-2411
		事業企画担当	スイッチON機子の推進 750-2442
		健康づくり係	保健活動推進員、予防接種、がん検診、 歯科保健、健康相談、栄養改善等 750-2445
	生活衛生課	食品衛生係	食品衛生関係、食品営業申請、 食中毒予防、医務・薬務関係、各種免許申請 750-2451
		環境衛生係	環境衛生営業関係(理美容、旅館等)、 建築物衛生法関係、犬の登録ペット相談、衛生害虫相談 750-2452
	高齢・障害 支援課	高齢・障害係	敬老特別乗車証、 指定難病の申請、濱ともカード、 【18歳以上身障・知的】福祉特別乗車券、 有料道路の障害者割引、福祉タクシー利用券 750-2490
		高齢者支援担当	高齢者の福祉保健に関する相談 (認知症、介護予防、成年後見制度、 介護保険外サービス等) 750-2417
		地域包括ケア推進 担当	地域包括ケアの推進 750-2417
		介護保険担当	介護保険の認定 750-2494
		障害者支援担当	障害者の福祉保健(身体障害・知的障害福祉の相 談、難病に関する相談、身体障害者手帳・愛の手帳 (療育手帳)、自立支援医療(更生医療)申請など) 750-2416
	こども家庭支援課	障害者支援担当	精神保健福祉の相談、精神障害者保健福祉手帳、 自立支援医療(精神通院医療)申請、 福祉特別乗車券(精神) 750-2455
			母子健康手帳、児童手当、医療費給付(小児慢性 特定疾病、育成医療、養育医療)、 乳幼児健診、産前産後ケア事業、 (福祉)特別乗車券(ひとり親家庭、障害児)、 福祉タクシー利用券(障害児)、 有料道路障害児割引(障害児) 750-2415
		保育所等に関すること 750-2435	
		放課後児童健全育成事業(小学生の放課後の居 場所:放課後キッズクラブ、放課後児童クラブ) 750-2476	
		こども家庭相談(幼児期から思春期までの子育て相 談、ひきこもり等の困難を抱える若者の専門相談) 750-2525	
母子保健(母子訪問、妊産婦・女性の健康相談、 両親教室、あかちゃん教室等) 750-2448			

名称		業務内容	連絡先	
区役所	こども家庭支援課	児童扶養手当、母子生活支援施設、ひとり親家庭の自立支援相談	750-2475	
		障害児の身体障害・知的障害福祉の相談、各種制度・サービスの相談・申請	750-2439	
	生活支援課	生活保護の相談・決定・実施 生活困窮者の相談・支援	750-2405	
	総務課	防災・危機管理、市民活動保険	750-2311	
	区政推進課	まちのルールづくり相談	750-2332	
		広報、区民相談(法律・行政・行政書士・税務)	750-2335	
	地域振興課	地域活動係	自治会町内会、商店街振興、消費生活	750-2391
		資源化推進担当	まちの美化、ごみの減量化・リサイクルの推進、フードドライブ、小型家電回収ボックス	750-2397
		区民活動支援担当	青少年育成、芸術・文化振興、読書活動推進、区民利用施設の管理・運営、子供の遊び場・はらっぱ・スポーツ広場の管理、防犯・防犯灯	750-2393
			多文化共生推進、スポーツ振興	750-2395
交通安全		750-2396		
地域力推進担当	地域のつながりづくり・課題解決の支援、コスモスミーティング、地域協働推進員	750-2398		
磯子区社会福祉協議会		スイッチON磯子の推進、生活支援体制整備、地区社協支援、ボランティアセンター、福祉教育、あんしんセンター、移動情報センター等	751-0739	
地域ケアプラザ	根岸地域ケアプラザ	スイッチON磯子の推進 こどもから高齢者、障害児・者の福祉・保健に関する地域の身近な相談窓口	751-4801	
	滝頭地域ケアプラザ		750-5151	
	磯子地域ケアプラザ		758-0180	
	屏風ヶ浦地域ケアプラザ		750-5411	
	新杉田地域ケアプラザ		771-3332	
	洋光台地域ケアプラザ		832-5191	
	上笹下地域ケアプラザ		769-0240	

ケアプラザの紹介

ケアプラザは地域の福祉保健活動の拠点施設です。

